

## 【くそったれレポート】

こんにちは、みさきです。

このレポートでは、私が男→女になった経験を通して  
今までどういう人生を送っていたのか？

ネットを使って自動でお金を稼ぐ。(不労所得)  
と、ちょっと変わった稼ぎ方をするに至った経緯は何か？  
そこに至るまでの事をかきながって行きます。

かなりくそったれだったことが山ほどあるんですけど…  
それも含めて詳しく書きます。(人生初です)

ヒアウィゴー！

### 【もくじ】 =====

染色体XY、れっきとした男です	3
低くなる声にあらがう中学生男子	12
全校生徒の84%が女子生徒の高校へ	25
ブラック企業勤務で社畜デビュー	40
イモ洗いゾウさんワールドへようこそ	56
ニューハーフクラブで挫折と劣等感を再度味わう	76
何！？会社で働かなくても稼げる...だと？	83
母のスネをかじって甘い汁を吸うダメな大人	95
「金を使わず金を稼ぐのが正義」ではなかった	103
天狗の鼻を根本からへし折られる	111
仕事に恐怖し、恐怖に恐怖し、ダメ人間になる毎日	119

ビジネスに出会って、私は死ななくてすんだ

125

「努力は必ずしも報われない」...だからこそ。

148

## 染色体XY、れっきとした男です

生まれた時、私は男だった。  
両性具有とかじゃないよ、完全に男。

ちんぽついていた。玉もついていた。

思春期にはちゃんと声変わりもしてヒゲも生えてきた。  
れっきとした男だった。

でも、今は女性として生活してる。

自分で書くと自慢っぽいので嫌なんだけど、  
「見が目は完全に女」らしい。

私のことニューハーフだと知ってる人も、  
「声も完全に女じゃん…」って言うくらいなので、  
声も女性なんだと思う。

日常生活では声で男じゃねーの？みたいな反応は皆無。

むしろ、メイクもせずすっぴんで、服装もダボツとした男みたいな  
服装で顔はマスクしてても、喋ると女性扱いになる。

たぶん声で女と判断されてるんだと思う。

なんか自慢みたいだ（汗）

ただ、さっきも話したけど、生まれた時は男だった。  
ち○ちん付いてたし、体格もよかった。

男の子の中でも身長が高くて、後から数えたほうが早かった

しかも、クラスの中ではトップクラスの早さで声変わりも経験した。

自分の性別に何も疑問を持たない人にとったら  
思春期も声変わりも昔の思い出にすぎないのだろう。

しかし、自分の性別に違和感を持っている人。  
私のようなMTFにとって、  
「男」であることは死んだほうがマシだと思う大問題なのだ。

性別が男なのは人生の全てをダメにしてしまう。

別に「男」という性別が悪いんじゃない。  
自分が男なのが問題なんだ。

身体が男だと違和感がヤバイくらいある。  
日常生活の全てが嫌悪感にまみれる。

トイレ行ったり、お風呂に入るのが恐怖になる。

「自分の身体は男なんだ」と思い知るからだ。

誰かに言われるわけじゃなくて、自分自身でそう悟ってしまう。

心の中では「私は女かもしれない」とかどこかで感じている。

性格だったり、感性だったり。  
男の肉体への違和感・嫌悪感だったり。

そういうものがずっとココロの奥底で渦巻いている。

もしかしたら、自分は女なんじゃないか？  
ココロとか脳とか見た目じゃわかんない部分が女なんじゃない？

そう思っているし、そう思い込みたい心理もある。

だけど、トイレに行けば男だと思い知らされる。  
お風呂に入れば見たくない現実が飛び込んでくる。

うわあやっぱり男なんだ————！  
ちくしょおおおおおお！！！！

ココロの中でそう叫んでしまう。

そんな日常が繰り返されると、どんどん自分が嫌いになっていく。

1週間に1回とかそういうレベルじゃない。

毎日。毎秒  
1秒1秒

寝ている時以外の起きている時間の全てが嫌悪感で一杯

そんな嫌悪感から逃れるための方法は？

死にたくなる人もいるようだ。

私も自分の身体のゴツさに絶望して死んだほうがマシだと思ったことは何度かある。

ただ、その時は「死ぬくらいなら死ぬ気で行動してみよう」と、思えたから良かった。

田舎に住んでいたから、電車で飛び込むとか  
高層ビルから飛び降りるとか、そういうことができない環境だったのも幸いしたのかもしれない。

ネガティブな話ばかりになったが、性別で悩んでいた時期は本当にココロが絶望していたんだ。

自分が好きじゃないから、自信が持てない。

自分の声が嫌い

自分の顔が嫌い

自分の体毛が濃すぎてキライ

自分の体格がゴツ過ぎててキライ

自分の骨が太すぎてキライ

鼻がデカ過ぎてキライ

肩幅広すぎてキライ

ちんこがキライ

キライ

キライ

大っ嫌い！！！！

って、エヴァンゲリオンのアスカばりに自分を責めてしまう。

このキライの度合いは個人差があるから、MTFの全員が大っ嫌いで死にたいみたいに思っている訳ではないらしい。

ただ、私は超キライだった。

特にキライだったのは「声」

生まれてから12歳まで、声は高かった。

というか当たり前なんだけど。

男の子でも声変わりするまで、女の子とあまり声に差はない。

ハスキーボイスがあるとか、ちょっとカッコイイ声の少年はいるが声の高さはほぼ変わらない。

でも声変わりを過ぎると、男の子の声は低くなる。

そして私も声が低くなった。男の声になってしまった。

自分の性別に違和感を持ったのは声が変わりがキッカケだった。

今までよりも低くなってしまおう声。

聞いただけで男だと判断されてしまう声。

そんな声が嫌だった。

声って日常生活のすべてに必要なもの  
つまり、朝起きてから夜寝るまでずっと自分のキライな声を聞かないといけな

いといけない。  
モスキート音とか、人間が嫌がる音があるよね。

あんな嫌な音を24時間365日聞きたいと思うか？  
思わないだろう。

でも、自分にとってはそれが日常だった。

常にイヤな声をきかざるをえなかった。

だからできるだけ声を出すのをやめた。

喋ったり、歌ったりするのをできるだけ辞めた。  
つまり、コミュ障になっていった。

人と話すと自分の声を聞かないといけなくなる。  
それは嫌だからなるべく話さないようになった。

それに自分がキライだから、自分に自信がなくなっていく。



自分に自信がないと人とのコミュニケーションもあまり上手くいかなくなる。

そこに声がキライなのも合わさって余計コミュ障になる。

私は今まで仕事を通して100名以上のMTFの方々と接してきた。

その中で強く感じるんだけど、  
MTFの人は自信がない人が多いと思う。

100%ではないけど70%くらいは自信ないと思う。

自分がキライだったり、  
自分を否定したり、責めてしまう傾向が強い

その結果、私と同じようにコミュ障になって、  
どんどん自分の殻に引きこもってしまっている人が多い。

男が女になるのはまだまだ世の中では「非常識」だ  
それに、「男が女装するのは気持ち悪い」という風潮も強い。

「気持ち悪いって思われたら嫌だな」

そう感じて、女性の格好ができずにいるMTFさんは  
めっちゃめっちゃ多い。

私自身も気持ち悪いと思われるのが怖くて  
女性の服装をするのが超絶怖かった。

冷静に考えると

女性の見た目になりたいのに、女性の服装するのが怖い？  
それって矛盾してない？

そう。

冷静に見るとそう思われて当然かもしれないが、  
当事者としては超絶怖い。

恐怖でしかない

だから行動できない。

でも、行動したい。

女になりたい。

女性の服装を試してみたい

でも怖くてできない。

そんな葛藤が無限と言ってもいいくらい続けられていく。

週に1回とかじゃない

毎日ずっと続く。

何回もつづく。

うつ病になってもおかしくないレベルで続く。

地獄だと思ってもいいくらい続く。

男が男なのは当たり前だけど。

MTFにとって男でいるのはそれくらいキツイことだ。

男でいるだけで全てが奪われているとすら感じる。

人生に意味なんて見い出せないし、人生はツライものでしかない。

だから私は抵抗したんだと思う。

最初の抵抗は以外にも「ボイトレ」だった。

今の自分から見るとボイトレでも何でもないけど  
当時の自分としては「声が低くならないようにしよう！」

そう思って抵抗していた。

なんでも、ウラ声を鍛えると女の子の声になるとか、

声変わりしなくなるとか友達が言ってた。

小学6年生だった。

昼休みにウラ声を出しまくって、高い声を維持しようとしてた。

でも、既にウラ声の出し方がわからなくなっていた。

声変わりが進行してたんだと思う。

それに人前でやるのが恥ずかしくて、  
誰もいない理科室に隠れてコソコソやってたんだが…

すぐに挫折してしまった。

「うわ、無理だ…」

小6だったからなのかガッツが足りなかった。

## 低くなる声にあらがう中学生男子

次の抵抗は中学1年生になってから。

音楽の授業で歌を唄うのだけど。

高いキーが出るようになるため、音楽の授業はかなり頑張った。

フォルテとか、メゾフォルテとか。

そういう座学的な勉強はぜんぜんやらなかったけど、声出しはかなり頑張った。

中学校の校歌とか、教科書に書いてある歌とか。

とにかく歌を唄う時は張り切って歌っていた。

．．．

ただ、中学校の授業では、男女別にパートを完全に分ける。

男子は声変わりがあるから、声変わり中でも、声変わり後でも出しやすい声の高さを唄う。

つまり、あまり役に立ってなかった。

中学2~3年になると、声以外の抵抗をすることにした。

私は当時熊本県の球磨郡（くまぐん）という山奥に住んでいた。

通っていた中学校は、古き良き時代の…

いや、古き悪き時代の九州が残っていて、男子生徒はみんな坊主頭が義務付けられていた。

あなたは驚いたかもしれない。

校則で丸坊主が「義務」づけられているんだ。

軍隊でも野球部でもない。

ただの公立中学校だ。

今の世の中でこんなことをやると「人権侵害だ」と話題になったりネットで一気に拡散するかもしれない。

でも、当時は2001～2002年で、ネットも今ほど普及してなかった。

もちろん「人権侵害では？」という意見は上がっていたし、熊本市内の学校では人権侵害を指摘されて校則での丸坊主を辞めている中学校もあった。

しかし、それは熊本市内の話。

私が住んでいた球磨郡はそんなのしったこっちゃなかった。

学校なんてクソだと思った。

その頃から私は学校への不信感をつのらせていく。

女子生徒は校則で「髪の毛を結ぶ」と決められていたが、髪の毛を結んでいない生徒がいても怒られることはなかった。

それに、髪の毛を結ぶだけであって切らなきゃならないみたいな校則ではなかった。

それに対して、男子生徒は髪の毛を「丸坊主」にしなきゃならない。

しかも、髪の毛の長さは5cmを超えるとダメらしい。

意味がわからなかった。

ここまで読んでくれているあなたも、ツッコミたいことは山ほどあると思う。

それと同じように私もツッコミたいことが山ほどあった。

まず、「男子だから男らしくしろ」と言いたいのもかもしれないが、丸坊主は明らかにやりすぎだということ。

また、5cmを越えたら髪の毛を切らなきゃならないのは男子生徒を持つ親への経済的な負担が大きいこと。

我が家は貧乏だったので、そういう経済的な話はかなりシビアだ。

髪の毛を丸坊主にしても、  
1ヶ月も過ぎれば髪は5cmくらいには伸びる。

2ヶ月も伸ばしたら完全に先生に「切れ」と言われるレベルになる。

それに対して、女子生徒は1ヶ月伸ばしても2ヶ月伸ばしても髪を結べば全く問題なかった。

前髪がジャマだと思って切る生徒はいるだろう。

でも、話の次元が違う。

完全に男女差別だなあと考えた。

そして、学校内でも男子生徒による不満はずっと高かった。  
別に女ほど髪の毛を伸ばしたい生徒だったわけじゃない。

「なぜ男子だけ極端に髪型への規則が厳しいのか？」

賢い生徒なら感じていたと思うし、そういう話も友達とよく話していた。

先生はアレコレ理由を付けていたが、論理的な説明は一度もなかった。

むしろ「昔から決まってるんだから従え」的な意見しか言わなかった。

学校ってクソだなと思ったし、先生ってクソだなと思った。

そんなこともあって、私は学校と先生が大嫌いだ。

未だに嫌いだ。

大人になってからは先生の事情もわかるようにはなってきた。



先生がいくら違和感を持っていても、「人権侵害じゃないか？」  
そう気づいていたとしても、たった1人の先生に  
学校の決まりを変えられるほどの権限がないこともわかる。

ただ「規則だから従え」と  
思考停止して弱い立場の生徒に自分でも納得していない説明をする  
のは、どうかと思う。

そんな先生ばかりが世の中じゃないと思う。

ただ、私はそういう規則にがんじがらめになり  
意味も理由もわからないことを、  
ただ惰性で続けている学校というものがクソすぎてキライだ。

．．．．

やばい、脱線しすぎた。

中学2～3年になると、声以外の抵抗もした。

爪をピカピカに磨いたんだ。

女子生徒の中にはオシャレに目覚めて、うっすらメイクをしたり  
うっすら髪の毛を染めたりする子もいた。

すね毛を抜いたり（笑）  
爪を磨いたりする子もいた。

だから、私も女子生徒をマネして爪を磨いてみた。

どうにか少しでもいいから女の子に近づこう。

男でいるのは嫌だ。

そう思って女の子のマネをするようになった。

髪の毛は伸ばしたかったが、少しでも伸びると先生からの「切れ」攻撃が酷かったなので、泣く泣く切っていた。

ていうか、切らないと  
生徒指導に呼び出されて説教される学校だった。

髪の毛を伸ばしたら説教？

大人になった今は説教される理由が全くわからない。

先生側の主張としては「校則を守らないのが悪い！」の一点張り

しかし、学校とは矛盾だらけなもので、  
中学3年になると公民の授業があって、  
「基本的人権」などを習うわけだ。

基本的人権の中で自由について語っていながら、  
学校は校則で人権侵害をしていく。

という矛盾。

そういう矛盾もわたしの学校嫌いに拍車をかけていく。

この流れはそろそろウザくなってきたので辞める（汗）

女の子のマネをしていった私だが、  
やはり、そのうちクラスの女の子に気づかれるようになる。

「あれ？ワサダくんなんで爪がこぎゃんキレイかと？」

日本語訳

→「あれ？ワサダくん、何で爪がこんなにキレイなの？」

私は見つかった瞬間、頭の中が真っ白になってしまった。

なぜ？

それは幼少期からの

「男は男らしく」の刷り込みが強かったからかもしれない。

男に生まれ、体格もよい柔道部で丸坊主頭の男子生徒が  
爪をピッカピカに磨いている。

なんだそれ、キモくない？

だれも一言もそんなこと言ってないのに、自分自身でそう思った。

「そ？そぎゃんキレイかね？」

「なんでやるかね？」

そうやってごまかすことしかできなかった。

女の子みたいになりたい。

男らしさを捨てたい。

そう思って女の子のマネをしていたのに、  
マネに気づかれるとビビってしまう私。

キモいと思われるのでは？

変なやつだと思われるのでは？

被害妄想でしかないのだが、被害妄想が頭の中でぐるぐるまわる。

そして、キモいと言われることを防ぐため

男らしくしなきゃと行動してしまう…

男らしさを捨てたいのに。

男らしさを捨てるために行動しつづければよかった。

まわりからなんと言われようと、自分が好きなものをやめず  
やりつづければいいんだ！

今の自分ならそう思う。その通りだと思う。

でも、当時はびびっててできなかった。

九州は、「男は男らしく」の呪縛が本当に強い。  
誰かがなにも言わなくても自分で自分のことを責めてしまう

自分で「自分がキモい」と感じてしまう。  
それくらい刷り込みが強い。

そうやって爪を磨くのを辞めてしまった私だが、  
やっぱり身体の違和感は消えなかったし、諦めきれなかった。

「爪はバレルから別のことをしよう！」

そう思って、腕毛を毛抜きで抜いたりした。

毛を剃ると、翌日にはぷつぷつと生えてくるので、抜くことにした。

でも、一気に大量に抜くと周囲にバレル危険性があったから  
すこしずつ1週間～1ヶ月かけて抜いていった。

そうすると、だんだん腕毛がまばらに生えるようになる。

少しずつ薄くしていけば、周囲も「最初からそんなだったような？」

と、思ってくれるかもしれない！

そうやって、ごまかすことや、カモフラージュすることばかり考えて行動するような中学生時代だった。

毛の話はまだある。

中学では、冬は制服も体操服も長袖長ズボンなのだ。

手足が人の目に触れることがない。

だから、冬場は腕毛とスネ毛の毛をつるっつるにしていた。

誰にも見られなければバレないからだ。

中学生時代は収入ゼロで金がなかったので、家の風呂場においてあった母のカミソリを勝手に使って剃ってた

中学3年も後半になると、進路の話になる。

私は自衛隊に入ってみようかと思っていたのだが、学力が足りなくて自衛隊には入れなかった。

なぜ自衛隊に入ろうと思ったのか？

声変わりがあった12歳から  
ずっと私は自分の性別に違和感があった。

でも、「私は女になって生きる！」と一瞬で決めたわけじゃない。  
それなりに葛藤があった。

男に生まれた人間が女になるんだ。

それは人生がかかっていることを簡単に決められない。  
悩みまくって、迷って。  
時には男らしくしてみたり。

それで落ち込んだり。

葛藤を続けて最終的に「女で生きる」と結論がでた。  
自衛隊に入ろうとしたのも葛藤の1つだった。

自衛隊にはいってこの女々しい自分のココロを男にしよう！  
そう決めて自衛隊の受験をしたんだけど。

学力が足りなくて落ちた。

で。

落ちた私は内心ホッとしてた。

やっぱり男で生きるとか、  
男らしくするには不安や違和感があったからだ。

自衛隊も落ちたんだし、男らしくしなくてもいいんだ！

なら、次は女らしくなってみようかな…

そう思って私は髪の毛を伸ばせる高校を受験することにした。

「髪の毛伸ばせる高校！？」

私には5つ年上の兄がいる。

兄は地元の商業高校に進学していた。

そして、兄は成績が良かったので学校では好き放題やっていた（笑）

タバコ吸ったり、校則で禁止されてるバイクに乗ったり。

もちろん学校にバレないようにやってた。

兄は髪の毛がそれなりにロン毛だった。

男子生徒としてはロン毛だった。

そんな兄を見ていた私は、商業高校なら髪の毛伸ばせる！

ある程度自由もききそうだし、校則もゆるそう！

そう思って商業高校に進学することにした。

ホッペを言えば高校なんて行きたくはなかった。



中学時代にさんざん学校の嫌な所や、先生の嫌な所も見てきたからだ。

そんなクソみたいな施設に自分の意志であと3年も通いたくなかった。

でも、親が「高校くらい出てないと就職先が見つからない」と説得してきたので、高校には行くことにした。

それに、中学3年当時の私は今ほど意志が強くなかった。素直じゃないけど、親や先生の言うことには従っていた

それで苦しむこともあったけど、まだココロも子供だった。

## **全校生徒の84%が女子生徒の高校へ**

頭は悪かったけど、それ以上に  
高校入試のハードルが低くて入学することができた。

高校生になった私が最初にしたのは当然ながら  
「髪の毛を伸ばすこと」だった

スーパーサイヤ人みたいに、気合を入れて  
うおおおおお！

ってやって髪の毛が伸びればいいけど、そんなことはありえない

髪の毛伸ばすっつーても、毎日伸びるのは数ミリ。  
つまり、髪の毛をできるだけ切らないように意識した。

私が入学した商業高校は全校生徒の90%が女子生徒だった。

右を見ても左を見ても女子生徒ばかり。

クラスの人数は32名。  
そして男子生徒は”私を含めて”14人だった。

私の学年はぜんぶで5クラスあって、  
他のクラスの男女比もだいたいそれくらい

そのうち2クラスは女子生徒しかいなかった。

割合でいうと

女84：男16

という感じ。

全校生徒の90%が女子生徒は言いすぎた。  
全校生徒の84%が女子生徒だった。

男子生徒が極端に少ないので男はモテるらしい？

いや、そもそも商業高校に行く男は女子生徒にとってはあまり魅力がなかったらしい。

女子生徒が付き合うのは他校の生徒や、社会人の男だった。

学校以外に可能性を求めるという発想がすごいなあ  
と、当時は思った

恋愛はわからなかった。

私は恋愛感情とか、好きとかキライとか。  
そういう感覚がぜんぜんわからなかった。

初恋？ 好きな人？

ぜんぜんわからなかった。

恋愛に興味がなかったというより、恋愛の意味がわからなかった。

自分の性別の違和感がひどすぎてそれどころじゃなかった。

ま、それはさておき。

周囲が女子生徒だらけなので、いろんな女性を見ることができた。

ボーイッシュな女子もいれば、美人系の女子もいる。  
不細工系もいれば、可愛い系もいるし、おばちゃん系もいる。

女っぽい性格、男っぽいせいかく、優しい性格、  
テキトーな性格、わけわからない系。

色々な女子生徒を見ることができた。

中学時代の苦い経験から、  
男女って大きく違うものだと思っていたけど、  
女子生徒もいろんな人がいて、  
男っぽい子もいるんだなあって思うようになっていった。

中学時代は、自分への劣等感でコミュ障になり  
女子生徒への憧れと、それに伴う劣等感で  
女子生徒と話すのが怖かった。

恥ずかしかったし、なんだかもじもじしてしまった。

高校になってからは耐性が付いたというか、  
慣れたのもあって、少しずつ話せるようになっていった。

それに、中学よりは校則が緩かったので、  
私も髪の毛伸ばしてなるべく女っぽくしようとしてみた。

体格もいいし、声も男だから限界はあったんだけど、  
それでもできるかぎり女性っぽくしようとしてた。

見た目を少しでも女性っぽくしようと思って、  
眉毛も整えるようになったのもこの頃。

女子生徒はほぼ100%が眉毛を整えていた。

男子生徒で眉毛を整えている子もいた

「まわりのみんながやってるから大丈夫かも…」

そういう環境の変化もあって、  
ビビリな私も眉毛を整えるようになった。

この時も、いきなり眉毛を整えると周囲に気づかれるから  
少しずつ整えていく作戦を使った。

そんな私の行動を見ていたからなのか、  
ある日同じクラスの女の子に

「ワサダくんって男の子が好きと？」

と聞かれたことがある。

女の子っぽくしている私を見て、なにかを感じたんだろうと思う。  
女性はそこらへんの感性が鋭いよね。

私はそんな質問をされて一瞬固まった。

「バレた!？」

という感覚よりも

「そういえばどっちが好きなんだろう？」

という謎の方が強かった。

私はそれまで恋愛経験がなかったし、初恋もまだだった。

男が好きとか、女が好きとか、  
そういう感覚がぜんぜんわからなかったんだ。

だから質問された時は固まってしまった。

そしてお茶を濁すように  
「うーん”まだ”好きか嫌いかわからない」と返した。

「ふーんそうなんだ」

女の子の反応はそんな感じだった。

話忘れていたが、私は高校1年の春に、長年悩み続けていた  
「男で生きるか、女で生きるか？」の自問自答の結論を出していた。

女で生きることに決めたのだ。

だから、高校時代はとにかく女になろうと努力していた。

そして「女とは何か？男とは何か？」

そんな哲学的な自問自答が始まった時期でもあった。

生物学的に見れば女とは、子供を産める生き物だ。  
男とは、子供を孕ますことが出来る生き物。

ただ、社会的に見れば男女の違いはそれだけじゃない。

髪の毛や服装から始まり、声の違い、社会的な役割の違い  
いろんな違いがあった。

別に子供を生むんだったら、髪の毛が長くても短くても問題はない。

それに海外に目を向ければ坊主頭の女性だっていて、  
ロン毛の男性もいる。

女って何？

男って何？

そんな自問自答を繰り返しながら、自分にとって思う「女」になろうと行動しだした頃だった。

私は別に男好きとか、可愛いものが好きだとか  
スカートが履きたいとか、そういうものは無かった。

ただ、自分の中の「男」が嫌だった。

声が低いとか、体毛が濃いとか、身体がごついとか。  
男特有の大衆だったり、身体のラインなど。

男がイヤなら中性でもいいんじゃないの？

そう思いつつも、やはり女性らしさに憧れていた。

女性のシルエットや、声などなど。

なぜかわからないが女性に魅力を感じていた。

恋愛対象として女性に魅力を感じるとか、そういうんじゃないくて。

自分もそういう魅力のある人間になりたいなと思っていた。

論理的、科学的に説明できたらいいのだろうけど。

論理的に説明できない、ただの感情的な「女になりたい」  
そして「男ではいたくない」という気持ちがすべてだった

高校2年頃になると、自分の女度に限界を感じるようになる。

というか、ただ髪の毛伸ばした男だったんだけど。  
もっと女になりたい！と強く願っていた。

ただ、中学時代柔道部だったから、



その名残もあって体格は良かった。

髪の毛を伸ばしても、見た目はぜんぜん男だった。

自分でもちょっと気持ち悪かった。

やっぱり男が努力しても見た目を女にするのは無理なのか…

挫折まではいかないけど、  
毎日自分の気持ち悪さを感じていた。

たぶん結構ネクラだったと思う。

せめて何か抵抗できないかと思って  
ダイエットしようと決意した。

やり方はわからないけど、とりあえず筋トレをして、  
寝る前にお菓子を食べるのを辞めることにした。

そしたら2～3kgは落ちた。

今思うに、私は甘いものが好きで  
しょっちゅうお菓子ばかり食べてた

チョコレートとか、コンビニのケーキとか  
和菓子とか…

炭水化物取り過ぎだったと思う。

特に目立った運動はしなかったけど、お菓子を辞めたらそれだけで体重が落ちた。

いまでこそ知名度の上がった「低炭水化物ダイエット」を無意識のうちにやっていたのかもしれない。

商業高校では、図書室にネットが繋がったパソコンがあったんだ。

私はインターネットで、性転換手術など、身体を女性に変える方法を調べるようになっていく。

情報を調べてみると、ニューハーフさんのブログなどが数件見つかった。

役立たないものもあったけど、役立つブログも多く見つかった。

ブログ…というか、当時はホームページがほとんどだった。

ホームページの中で男から女になるまでの経験談や、  
どういう物が必要で、どれくらいお金がかかるのか？

という話をしていた。

私が小学生の頃から、テレビでたまにニューハーフ特集はやってた。

ニューハーフの豊胸手術はどれくらい？

性転換手術はどれくらい？

脱毛はどれくらい？

テレビでもそういうネタの番組は多くはないけど、定期的にやっていたと思う。

女になるためにはお金がかかる。

逆に言えばお金を使えばもっと女らしくなれるんだ。

ネットで調べた情報でも似たようなことが書いてあった。

「女に近づくためには金がかかるんだ！！！」

これは私にとにかく刷り込まれていった。

と、同時に私はすごく金が欲しくなった。

金が欲しくてほしくてたまらなかった。

お金さえあれば性転換して女で生きられるんだ！

限界はあるのかもしれないけど、もっと女性らしくなれるかも！

女性として生活できるようになるかも！

お金は生きる希望だった。

高校なんて行ってないで、さっさと就職して金を稼ぎたいと思った。

高校2年のいつだったか忘れたけど、高校のOG？

中退した生徒だったかわからないけど、学校で茶髪でピアスだらけの女性を見かけた。

女子生徒や先生と親しく話していたので、知り合いなんだろう。

女性はとても生き生きとした表情で楽しそうに何かを話していた。笑顔があふれていた。

ピアスと茶髪で一見すると少し怖かったけど。

自由に生きている感じがした。

おそらくもう社会に出て仕事しているのかな？

仕事をすればあんな風に自由に生きられるんだろうな。

高校なんて辞めて、中退でもいいから仕事しようかな。

仕事したい欲がどんどん膨らんだ。

私にとって、金を稼ぐことは女になることに直結していた。

そして、自由になることにも直結していた。

学校は規則だらけだし、自由もなく、

男を押し付けられる収容所だった。

金を稼げばこの刑務所から解放されるかもしれない。

そう感じていたのかもしれない。

## 就職活動

高校3年になり、就職活動のシーズンがやってきた。

商業高校は普通高校と違って卒業後は就職する人の割合が高い。

全体の50%近くが就職する。

専門学校、短大、大学に進学する生徒もいるけど、

私は就職を希望した。

ていうか何度も言うが私は学校が大っ嫌いだ。

そんなキライな施設に

自分の意志で通うなんてことはしたくなかった。

短期大学だと2年くらい？

よく知らないけど、学校なんて二度と通いたくなかった。

中学時代に悔しい思いをして、イヤイヤ高校に進んだ。

もう苦い思いはしたくないし、早いところ金が稼ぎたい。

中卒よりも高卒の方が就職先があるだろうから、  
3年前よりも条件はいいはずだ。

さっさと就職して金稼いで女になるんだ！！

就職先の選び方。

それは給料しかない。

給料以外になにが選択基準となるのだろうか？

金のために働くんだ。

給料が良いところを選ぶに決まっている。

志望動機？

他の会社よりも給料が多くて休みが多かったからです！

それ以外の理由はあるだろうか？

ない、まったくもってない。

お金を稼ぐために就職するんだ。

給料以外に理由なんてないだろうに。

そう思っていたので就職活動は非常に難しかった。

ぜんぜん上手く行かなかった。

とくに志望動機でつまづいた。

「給料が良いから御社を希望しました！」

それ以外に理由なんてないからだ

「色々面接受けたんですけど、ぜんぶ落とされてしまいました。」

「残った企業の中で御社がわりとマシな給料だったんで選びました」

それ以外に理由なんてない。

という訳で面接は落ちまくった。

最終的には

「もう給料少なくてもいいから、とりあえず雇ってください」

という状況になるまで面接は落ちまくった。

そして、その通りに給料が安いが  
労働時間は長いブラック企業が雇ってくれた。

その後、ブラック企業で死ぬ思いをするとは思わなかったけど、  
雇ってくれたし、給料も貰えたので、  
今は感謝している。

世の中の黒い所を色々見せてもらえたし。

というわけで私は愛知県一宮市のブラック企業へ就職した。

## ブラック企業勤務で社畜デビュー

仕事はキツかったし、酷かったけどお金は稼げた。  
少ないけど、高校時代は収入ゼロだったのでだいぶマシだった。

初任給は12万円くらいあった。

勤務日数が14日程度だったのに12万円あった。  
ハッキリ言って驚いた

「え??こんなにお金もらえるの??」

ただただ嬉しかった。

宝くじが当選したみたいな感覚。

新しいおもちゃを大量に与えられた感覚だった。

できないことは何もない  
そう思えるほど有頂天になった。

そして、お金を使いまくった。

近所のファミレスとかカレー屋さんとかに行ってお飯食べたり。

会社の同僚と遠出して遊びに行ったり。

近所の雑貨屋でいろんな面白いものを買って漁ってみたり



100円均一で家で使うモノを買いまくったり。

この頃生まれて初めてまんが喫茶に行った。

まんが喫茶ではジュースも飲み放題だし、  
マンガも読み放題だし、  
ネットも使いたい放題だった。

まるでこの世の全ての贅沢をつくしたような世界。  
私はまんが喫茶に惚れ込んでしまい、  
毎日のように通っていた。

ネットでブログを書き始めたのもこの頃からだった

そうやって食べて、遊んで楽しんでお金使いまくると  
当然ながら金がなくなる。

仕事はストレスが非常に多い職場だった。

その反動もあって、仕事が終わった後は遊びに行くことが多かった。

というか18歳だったし、遊びたい盛りだった。

田舎出身の私にとっては、愛知県一宮市は大都会だった。  
聞いたこともないお店が多かった。

サイゼリヤ、ドン・キホーテ、ラウンドワン、スタバなどなど…

毎日が新鮮で毎日金を使う先が出揃っていた。

そんな生活をしていると、当然ながらぜんぜんお金はたまらなかつた。

高校時代は「女になるためにお金を稼ぐ！」と思って就職したのに就職したら遊ぶことが楽しくて遊んでばかりだった。

5月になってゴールデンウィークになり、連休をもらうことができた。

と言っても飲食業なので、世間のゴールデンウィークよりは1週間ほどズレていた。

ただ…

私は金がなかった。

給料日前だったからなのと、前述したように金を使いまくっていたからだ。

ゴールデンウィーク中、手元には500円しかなかった。

給料日は連休明け。

私はせっかくもらった連休中になにもすることができず  
ただ家でボーっとして過ごした。

食べるものもなかったので、  
仕事に出て「まかない」をもらおうかと思ったくらいだったが、  
それは流石にはずかしくて辞めた。

とりあえずコンビニで永谷園のお茶漬けを買って、  
連休が終わるまでお茶漬けを食べて凌いだ。

ハッキリ言ってバカだったと思う。  
計画性もなんもないし、お金がなくても出来ることはあったと  
今では思う。

当時はひたすらバカだった

でも、女性になる努力を忘れていたわけじゃない。

まんが喫茶で、情報を調べて、ヒゲの永久脱毛ができる  
脱毛サロンに予約を取っていたんだ。

バカな私でも、情報は常に調べまくっていた。

まんが喫茶に入り浸ってネットで豊胸手術や性転換手術、  
女性ホルモン情報を調べていた。

女性ホルモンに関しては、ネットを通して仲良くなっていた  
FTMの友達に病院を教えてもらっていた。

その病院は愛知県名古屋市にある  
フローブクリニックという美容外科だった。

私が住んでいた愛知県一宮市からは  
電車で20分くらいで名古屋駅に行くことができる。

片道440円だった  
(尾西線の開明駅が最寄り駅だった)

JRが走っていない田舎出身の私にとって、電車に乗るのは  
ドキドキわくわくの体験だった。

ドキドキわくわくにプラスして、  
女性ホルモン注射できる病院に向かうのは  
更にドキドキばくばくだった

そして人生初の女性ホルモンを注射した。

2006年12月16日だった。  
私は19歳になっていた。

欲を言えば18歳で女性ホルモンを開始したかったのだが、  
持ち前のビビリ精神があってなかなか行動できずにいた。

性同一性障害の人間が、ホルモン注射をする場合、  
専門機関が定めた「ガイドライン」というものに従うのが  
一般的・・・・・・・・

本当は一般的ではないのだけど、  
それが正しい道だと言われていたので、何も考えずに従っていた。

別に従わなくても法的な問題は何かないし、  
MTFの割合で見ると、従ってない人の方が一般的なんだけど。

当時はそんなこと知らなかった。

それで、ガイドラインに従って色々と  
意味のないカウンセリングを受けて時間とお金を浪費していた

今冷静に見るとかなりムダなことをしてしまったなと思う。

しかも私が通っていた病院がそれなりにヤブだったらしい。

そんなこんなで、なかなか  
女性ホルモン注射にたどり着けなかったのだが、  
FTMの友達の情報があって、女性ホルモンをすることができた。

ほんとうにありがとう。  
今でも感謝している。

世の中には「常識」というものがある。

MTFで言う所、「ガイドラインに従って進みなさい」  
というのが常識なのかもしれない。

多く的人是それが正しい道で、  
そうしなければならないと思込込んでいる。

しかし、実際の所、ガイドラインに従って進む必要はない。

そして、ガイドラインそのものにも  
「従うことを強制はしない」と書いてある。

にもかかわらず、ガイドラインに従い  
時間と手間を書けて女性ホルモンを待ちわびているMTFは多い。

そして、GID（性同一性障害）の診断書を手に入れようと努力する

GIDの診断書は持っていて損することはないと思う。

診断書がないとホルモン注射してくれない病院は多いし、  
診断書があると名前の変更や、戸籍変更の際に役立つ。

ただ、それは女性ホルモン開始後でもいい。

女性になるよう行動しながら、  
必要に応じて診断書を取得すればいい

にもかかわらず、診断書を取得してから次のステップに…  
と、進むことを希望する人がいるのは事実。

というか、昔の自分がまさにそんな人間だった。

ガイドラインに従うのが正義であり、自由診療など勝手にやるのはダメだと思っていた。

悪い子だと思ってた。

よく考えてほしい。

私たちは「ガイドラインに従うため」に女性化を進めているのか？

それとも「女性化を進めるため」に  
ガイドラインに従っているのか？

手段と目的が逆になることがよくある。  
だから一度冷静になって見直すことも大事だと思う。

話を戻そう。

生まれて初めての女性ホルモン注射をした後は、  
劇的に身体が変化して・・・

まったく

まったくそんなことは無かった。

いつもと同じ1日が過ぎていった。

むしろ、年末だったのもあって激烈に忙しかった。

身体の変化はあまり無かったが、気分の変化は大きかった。

「これで男を辞められる！」そんな嬉しさもあったし、よくわからない吐き気とダルさもあった（苦笑）

一応ホルモンは効いていたらしい。

女性ホルモンは1回2回注射しただけじゃ特に身体の変化はない。

半年～1年と継続して注射しつづけることで身体が少しずつ変化していく。

「継続は力なり」

中学の時、生徒指導で体育教員のナス先生が口癖のように言っていた。

「継続は力なり」

学校はキライだったが、今はこの言葉が少し好きだ。



何か達成したい目標があったとする。

目標は1度や2度の努力や行動ではなかなか達成できない。  
しかし、継続してやり続ければ徐々にできるようになる。

女性になって生活している今、  
継続が重要なことは身にしみて感じる。

女性ホルモンも継続が大事だったし、  
ダイエットも継続が重要だった。

ネットでの仕事も継続が大事だった  
趣味でやってる三線も継続するほど上達している

「継続は力なり」

もうすこし言葉を加えるなら

「継続と反復は力なり」かな。

何度もくりかえすことで人間は苦痛が少ない状態で  
新しい知識や技術を身に着けていくことができる。

それは女性化もそうだし、お金稼ぎもそうだし、  
ダイエットもそうだし、声のボイトレもそうだ。

三線の練習もそうだ。

くりかえすことが超重要。

学校の先生は教えてくれなかったけど、  
くりかえすことは継続以上にパワーがある。

脱線してきた。  
話を戻す。

女性ホルモンを継続して行った私は少しずつ身体が変化していった。

胸がちょっと成長したり、おしりがちょっと成長したり。

身体の変化を感じたときは超嬉しかった。

今までの人生で望み続けてきたことが叶っているワケだから  
嬉しくないわけがない。

ただ。

残念ながら女性ホルモンでの身体の変化には限界があった。

具体的に言うと、体毛は薄くはなるが量は減らないので  
永久脱毛などは必要になる。

声は高くない。  
男の声のままだ。

身長や体重などに変化はほぼない。

小柄になるとか、華奢になるとか、そんなことはない。

そして、肩幅が狭くなることも、  
骨盤が女性並みに成長することもない。

骨は第二次性徴期を過ぎるとほとんど変化がないらしい。

女性の体格を目指すのならば、第二次性徴期の前。  
つまり11~12歳くらいから女性ホルモンを始めないとダメらしい。

すごく悔しかった。

でも、しょうがないじゃないか。

変化しないことを見て嘆くよりも、変化したことを喜ぼうと思った。

もっと女らしくなりたい気持ちは消えない。

むしろ、この勢いに乗って更に女らしくなりたいと思う。

ネットで調べていたから、知ってはいたのだけど、

これ以上の女性化を求めるなら手術をするしかない。

私もそれは理解していたが、  
現実問題としてお金がなかった。

居酒屋従業員のままでは、収入に限界がある。

毎月コツコツ貯金することも考えた。

しかし、毎月1～2万円程度の貯金では何年かかるのか…  
そんなのは嫌だった。

それならもっと収入の多い仕事に  
転職したほうが効率がいいと思った

長年コツコツは機会損失というか、人生の時間を失い過ぎる。

中学生時代  
高校生時代

ただ待っているだけの人生だった。

思考停止して諦めて、現状に従って我慢し続けるだけの生活だった。

もう、そんな生活には戻りたくない。

という訳で私は、某自動車製造会社の  
期間従業員として働くことにした。

その会社を選んだ理由は  
「稼ぎがいい」と友だちに聞いていたからだ。

あと、接客が苦手だったし、飲食業界は闇が深すぎて嫌だったから  
製造業もいいなと思っていた部分も影響している。

期間従業員は社員寮なので家賃や光熱費はタダだ。

これはお金を貯められるな！と思って働くことにした。

幸いなことに面接したら1発で合格し、  
翌月から働けることになった。

それまで働いていた居酒屋を辞めるのに  
抵抗がなかったわけじゃない。

むしろかなり抵抗があって、辞めるまで時間がかかった。

やっぱ、稼げるとわかっていても、全くやったことがない仕事だ。

どんなことをやるのか？

自分ができるのか？

すごく大変だと聞いたけど…

自分がそんな仕事をやりきれるのだろうか？

…怖い。

それに水道光熱費と家賃がタダと言っても、  
男子寮に住むことには抵抗があった。

個人の部屋にはトイレやお風呂はなく、  
トイレとお風呂は共同なのである。

つまり、ゾウさんがひしめく男湯に  
全裸で突入しないといけないんだ…！

「まちか…」

見た目は男だった私でも、  
気持ち的には女の部分があったと思う

「ココロは女よ！」

と、主張したいわけじゃないんだけど、  
全裸で男湯に行くのは精神的な拒否感が半端ない。

別に見た目は男だし、身体も男だから誰かが気にするとか  
身の危険があるわけじゃないけど。

男湯に行くってことは、「自分は男なんだ！」と  
改めて思い知らされるわけで、嫌悪感があった。

それに純粹に恥ずかしかった。

たぶん自分の身体に自信がないし、自分の身体がキライだったから  
そんな身体を他人に見られるのが嫌だったんだと思う。

とはいえ、女になるためには金が必要になる。

男としての生活を我慢することになるけど、  
金を稼げるチャンス！

そう考えた結果、いやいやながらも期間従業員を選んだ。

背に腹は変えられない。  
ここで働かなきゃ一生男のままなんだ！  
そう思って嫌々働くことにした。

できれば働きたくなかった。

もっと安全で精神的な苦痛もなく大金を稼ぐ方法があるなら  
そっちを選びたかった。

しかし、私はそんな仕事をしらなかった。

それ以外の選択肢を見つけることができなかった。

だから、イヤだったけど働くことにした。

## イモ洗いゾウさんワールドへようこそ

期間従業員での仕事は超が付くほど激烈だった。  
キツかった。

スポーツや運動の経験がある人なら気にならないのかもしれない  
ただ、私にとっては猛烈な仕事量だった。

1日の仕事の中で、自動車500台ぶんのドアの配線を組み付ける。  
その間、身体はずっと動かし続ける。

毎日8時間のジョギング大会がスタートした感覚。

業務開始3日で私は保健室送りになった。  
背中と足が痛かったので、検査になったんだ。

検査の結果、ただの筋肉痛だったらしく問題はなかった。

1週間も仕事をすると、指がボキボキなるようになる。  
寝起きの指のカクカク具合はそうとうヒドイ。

ペットボトルのキャップが開けられないくらい  
一気に握力が落ちる。

そして、指はスムーズに動かなくなる。



これは一時的なものらしく、  
ようするに手のひらの筋肉痛みたいなものだ。

2週間もすれば慣れるのだけど、  
放置していると腱鞘炎や「ばね指」という病気になる。

これは気をつけたほうがいい。  
腱鞘炎やばね指になったら、手術が必要になるからだ。

そんな期間従業員の経験があったせいなのか、  
私は寝起きなどは未だに指がポキポキすることがある。

一種のばね指っぽい症状だけど、そこまでひどくはない。

日本の製造業は、こんな従業員の苦勞に支えられているのか  
初めて製造業を経験した私にとっては、  
色々な意味で感動があったなあ

ちなみに、この激務と仕事量が原因なのか、  
仕事を始めて1週間以内に辞める人も少なくはないらしい。

実際、私の同級生も期間従業員を経験したのだが、  
3日で辞めたらしい  
(仕事を紹介した同級生ではない人)

私も仕事がキツすぎて1週間で仕事やめようかと思った。

本気で思った。

朝早いし、仕事キツイし、休憩はあるけど、10分ずつだし  
すげー筋肉使うし。

思ったのと違う。

「コレジャナイ感」がハンパなかった。

仕事がキツすぎて1ヶ月で10kg近く体重が落ちた。

それまで色々なダイエット方法を試したり、  
自分なりに運動してみた経験があったけど、  
全然痩せなかったんだ。

でも、期間従業員で働いたらあっという間に体重が落ちた。

毎日体重が減っていくので、  
最終的には消滅してしまうんじゃないか？  
そう心配するほどの勢いで体重が減り続けた

当時のことを思い出してみても、感じるのだが  
それまでのダイエット方法ってのは、  
やり方が生ぬるかったんだと思う

運動をするにしても、運動量が足りなかったし、  
食事を変えるにしても、食事の抑え方が足りなかった。

つまり、徹底的にやってなかったから結果が出なかった。

期間従業員で働くと、徹底的に叩かれまくる。

身体が強制的に絞られまくる。

その結果痩せたんだと思う。  
環境を変える効果ってものすごいな。

期間従業員の仕事は激務だったんだけど、  
私は金のために辞めなかった。

というか、金稼ぐために仕事に来たんだから  
辞めるわけにはいかなかった。

辞めたらまたツライ男での生活に戻るかもしれない！

目の前にはチャンスが転がってるのに！  
(あまり掴みたくないチャンスだが)

血へド吐いてでもしがみついてやるうう！

当時そう思っていたのか覚えていないけど、  
金のために辞めなかったのは事実。

もう私は金しか見えてなかった。

金を稼ぐことが全てだった。

期間従業員だった間、遊びに行ったり、

どこかの飲食店に行くようなことはほとんどしなかった。

むしろ、毎日節約して食費も極限まで削って  
カツカツになって生活していた。

その反動で仕事辞めた後は金使いまくってしまうのだが…  
この時はまだわからなかった。

ゴールデンウィーク連休を使って、同じMTFに会いに行く。

期間従業員として働き始めて3ヶ月くらいで  
ゴールデンウィークになった。

私も連休を貰えたので、  
連休中は神奈川県横浜市の知人に会いに行った。

その知人は私と同じMTF（♂→♀）の人で、  
ネットと通して知り合った人だった。

仮に名前を「カミオサ」としよう。

カミオサさんは自分の声にコンプレックスがあって、  
声の手術の予約をしていた。

MTFのほとんどは思春期に声変わりして、  
男声になってしまう。

私と同じように声のコンプレックスを抱える人は多い。

そして、世の中にはそんなMTF向けに「声を高くする手術」がある

ゴールデンウィーク中はカミオサさんと一緒に遊んだりして色々仲良くさせてもらった。

そして、ゴールデンウィークが終わってからカミオサさんは声の手術をして、喋れるまで回復したらしく私に電話をかけてきた。

ちょうど仕事の昼休み中だったので、私も電話に出ることができた。

そして5分くらい会話したんだが、たしかに声が高くなっていた。女性の声か？は微妙だったが、たしかに声が高くなっていた。

「本当に声が高くなるじゃん！」

当時の私はすごくビックリした。

声を高くする方法がまったくわからなかったからだ。

いまでこそYouTubeで検索すれば、声を高くする方法や女性声を出すボイトレ方法がめっちゃくっちゃ見つかるけど当時はYouTubeもなかったし、情報もなかった。

だから、手術で声が高くなるなら

自分もやってみたいと感じるようになった。

それに私は自分の声に対する嫌悪感が半端なかった。

少しでも声が高くなるのなら、  
お金かけてでも手術してみたいと思った。

そして、知人のMTF（カミオサ）さんに  
どの病院で手術したのか教えてもらい、  
お金を貯めて私もその病院で手術することにした。

自分の声への嫌悪感がハンパなかった

だから私は手術をしようと思った。

期間従業員だった当時は、  
愛知県の豊田市に住んでいたが、  
声を高くする手術ができる病院は京都府にあった。

しかも手術代金は入院費含めて70万円かかる。

通院も大変だろうし、京都なんて人生で一度も行ったことない。

普通だったら距離や金額がネックになって手術は選ばなかった

でも、知人がやったことで、手術が身近なものに感じられた。

それに知人ができたんだから、自分にもできると思った。

そして私は声を高くする手術をした。

手術の内容については、この主旨とズれるのでおおまかに説明する

手術はのど仏（甲状軟骨）の骨をずらして、  
高い声を出している喉の形で固定するという単純なもの。

手術結果として、声は高くなったが、  
女性の声になったわけではない

病院の説明でも、

「手術したからといって声が女性になるとは限りません」  
「術後はボイストレーニングが必要になる場合もあります」

的なニュアンスの説明を受けていた。

そのとおり、女性声にはならなかったが、  
個人的には少しでも声が高くなったのは嬉しかった。

ちなみに手術は3日間の入院が必要になる手術なので  
仕事は休まなければいけない。

当初は有給休暇を使おうと思っていたのだが、

勤務開始から半年過ぎていなかった私には有給が無かった。

しかし、幸運なことに夏休みの連休が1週間ほどあり、その連休中に手術することができた。

あのときは毎日カレンダーとにらめっこしてこの先の人生の計画を立てていた。

夏に連休があることを知っていたので、それを見越して手術の予約をしていたのだ。

声を高くする手術をすると、手術翌日から声が出せるわけではない。

手術から1ヶ月は声が出せない。  
物理的に出せないというよりも、傷口が開いたり炎症する可能性があるから、喋っちゃダメってやつだ。

1ヶ月も喋れないと、その間の業務には支障がくる。

だから前もって職場の上司にその点をお願いしていた。

「来月、喉の手術をするのですが、術後は1ヶ月声が出せないらしく、その間は筆談で話すことになるみたいです。」  
そんな感じで上司に説明していた。

「声出さなくてもOKですか？」



という話じゃなくて

流れとしては、

- 1) 病気で喉の手術をすることになった
- 2) そのせいで1ヶ月会話できなくなる
- 3) その間は筆談になります、すいませんがよろしくです

という流れだ。

これがもし、豊胸手術だったらどうなるのか？

- 1) 病気で胸の手術をすることになった
- 2) ○月○日にお休み頂きます

こんな感じだろうか。

期間従業員で働く上で会社には規則がある。

たとえば、工場に入る時はIDカード持ってくるとか、安全靴を履くとか、作業着を着て仕事する。

などなど。

その中に「男なのに声が女みたいなのはダメです」とか  
「男のくせにおっぱいが大きいのはダメです」  
みたいな項目はないと思う。

こういう風に規則のウラをかく視点は、

中学～高校を通しての経験で身につけていたんだ。

だから、仕事でも「規則違反じゃないし、問題ないだろ」

という視点で行動できたんだと思う。

もともと期間従業員は短期間働いたら  
辞めなきゃいけない仕事だ。

だから

「何か問題があったら辞めてやる」  
くらいの覚悟が固まっていたのかもしれない。

また、全く知らない職場と全く知らない人達と仕事するので  
人間関係はほぼゼロだった。

職場の人は私がどんな人間なのか知らない。  
私も職場の人間がどんな人なのか知らない。

だから、お互い干渉することがなかったんだと思う。

会社としても「ちゃんと仕事すれば給料出すよ」  
というスタイルだったのも幸運だったのかも

ちゃんと仕事してくれれば、喉の手術をしようがOK

ちゃんと仕事してくれれば、キンタマ取ったってOK

ちゃんと仕事してくれれば、女性ホルモンやってもOK

ちゃんと仕事してくれれば、豊胸してもOK

みたいな感覚だったんだと思う。

実際、わたしが働く工場の中には、  
腰まであるロン毛をなびかせてる筋肉質のオッサンもいた。

MTFとかじゃなさそうだった。  
ただロン毛の人だった。

金髪の人もいたし、ピアス開けまくってる人もいた。

接客業じゃないので、  
見た目には特に制限がない職場だったんだと思う。

それは見た目を女性に変えたい私にとっては好都合だった。

という訳で私は仕事に影響がでないように手術しまくっていった。

一応「男」として就職していたので、  
職場では男のフリをしていた。

せめてもの抵抗として、男子トイレを使う時は  
毎回かならず個室を使っていたが…

手術をして身体を変化させていくと、それなりに自信がついてくる職場では「男」登録だったので、男ぶっていたが

プライベートでは少しずつ女性モノの服装をしようかなーと思って少しずつ準備を進めていた。

スカート履くとか、いきなり女性の服装をするのは超抵抗があった

なので、抵抗がある自分でも手が出せるものはないか？と、探して行動してみた。

例えば、ピアス。

ピアスにはメンズとレディースがある。

ユニセックスもある。

私はピアスを開けていたので、ピアスを女性モノにしてみた。

といっても、イヤリングみたいなプラプラ揺れるやつじゃなくて小さな光る石がついてるようなやつ。

そのほか、会社に持っていくカバンを女性モノにしてみたり

仕事中に着てたTシャツを女性モノにしてみたり。

高校時代からやってるけど、眉毛を整えてみたり。

大きいことを一気にやる必要はない。

小さいこと、抵抗があってもできるようなこと。  
そんな細かいことからじわじわ変えて行けばいいんだ。

その頃になんとかそう感じていった。

徳川家康が大坂城を攻める時。

大坂城の堀を少しずつ埋めて、  
少しずつ攻める環境を整えていったらしい。

小学生の頃、担任の先生がそんな話をしていた。

叶えたい目標があるとしたら、一気に全部やらなくていい

少しずつ少しずつ、じりじりと進めていけばいいんだ。  
そういう意味だったのかな。

わたしもじりじりと女性化を進めていった。

手術をして身体をイジっていったし、身体以外の部分。  
たとえば、服装とか、髪型とか、持っている小物とか。

そういう身の回りのものもジリジリ攻めて行った。

「手術は怖くなかったのか？」

これはよく聞かれる。

正直言うと、怖かった。

手術そのものが怖いというより、手術をすることを考えた時それが一番怖かった。

傷口が残るのでは？  
後遺症が残るのでは？

色々悩んだ。

でも、その悩みよりも自分への劣等感や苦しみのほうが強かった。

声を高くする手術でいうと、低い自分の声がキライすぎたために手術が失敗したとしても、キライな声が出なくなるならその方がマシだと思っていた。

極端かもしれないが、それくらい気に病んでいた。

そんな時に「知人が声高くする手術して成功した」って情報を耳にしたので飛びついたのでかもしれない。

とにかく劣等感と嫌悪感が強すぎて  
死にたくなるような毎日だったから、  
生きるためにやったんだと思う。

人生2回目の手術は睾丸摘出手術だった。

これも怖かった。

手術代は当時、30万円程度だった。

でも、知人のMTFさんからの紹介を受けていたので、  
半額の15万円ですむとのこと。

節約して給料を頑張って貯めれば払える金額だったと思う。  
でも、びびってて行動できなかった。

それは喉の手術をする前の話。

そして、声を高くする手術をやった後。

手術をしたという経験が自分のちいさな自信になっていた。

だから、睾丸摘出手術も、今の自分ならできるかもしれない。

そう思ってすんなり手術することができた。

劣等感が強かったし、男の象徴である性器の一部を剥ぎ取れる  
そう思ったら手術はそこまで嫌なものではなかった。

そのほか、豊胸手術もやった。

豊胸手術は、女性ホルモンやっても  
一向に大きくなるしない自分のおっぱいがイヤで手術した。

友達のMTFからは

「作り物だぞ！」

「本物には勝てないぞ！」

「揺れないぞ！」

などなど、ストレートに「やめておけ」と助言をくらったが、  
助言に従った所で私の胸は貧乳のままだったから手術した。

助言に従って胸が大きくなるのなら従うけど、  
従った所で胸は成長もしない、大きくなるしない。

それでいて、助言した人間がなにか責任を取ってくれることはない。

助言に従うか？  
従わないか？

どちらを選ぶかは自分の責任だ。



身体をいじり続けてある程度、見た目が女っぽくなってきたので私はニューハーフクラブに転職した。

もともと、期間従業員は6ヶ月で辞めるつもりだった。

手術代を稼ぐために3ヶ月延長してもらって9ヶ月働いたけど、それ以上は「体力的に無理」と思ったので9ヶ月後に辞めた。

辞める前に名古屋のニューハーフクラブで面接をしていた。

そして、採用されていた。

今思うに、ニューハーフ業界ってのはけっこう人手不足だ。

というのも、そもそもニューハーフの母体数が少ない。

人口1000人の町に何人いるかわからない。

それくらい貴重な人材らしい。

それに当時私は21歳だった。

20代のニューハーフは、20代というだけで採用される部分がある。

もちろん見た目が女に見えるという条件はあるが。

ある程度見た目が女っぽくて、やる気がアレば働けるんだと思う。

私は見た目には自信がなかったけど、やる気だけはあった。  
なぜなら、期間従業員を辞めているので収入源がもうないからだ。

働けないと収入ゼロになっちゃう。  
収入がないと死んでしまう

地元の熊本県から遠く離れた愛知県に住んでいたのも  
頼る相手も身近にはいない。

それに、女の姿で地元に戻ったら拒否されるかもしれない。

親に頼ろうにも、そもそも親も貧乏だ

そういう個人的な背景もあって、突き進むしかなかった。  
後戻りはできなかった。

それに、ニューハーフとして働くのは昔からの憧れでもあった。

ニューハーフ = 美しい

と、思い込んでいたので、ニューハーフクラブで働けば、  
見た目に自信がない自分でも女の見た目を手に入れる事ができる！

そう勝手に思い込んでた部分も強い。

見た目に自信がないからこそニューハーフクラブで働きたかった

ニューハーフクラブの面接は余裕だったか？

むしろ逆でかなりビビっていた。

期間従業員をしていた時代、土日の休みの日にアルバイトをしていた。

バイト先の店長にニューハーフクラブで面接してこい！  
って言われたのがあったんで面接に行った。

もし、店長が面接してこいって言わなかったら  
面接には行かなかったと思う。

なにかの罰ゲームで「見知らぬ人をナンパしろ！」  
というのがあったとしたら、その感覚に近い気がする。

自分の意志で決めてないからこそ、  
行動のハードルが下がったのかも

「とにかく面接に行けばいいんだよね…」

そう思いながら行動したのかもしれない。

## ニューハーフクラブで挫折と劣等感を再度味わう

で、ニューハーフクラブ勤務の話。

ニューハーフクラブの先輩たちはキレイでキレイで感動した。  
私と同じ年の21歳で既に性転換した人もいた。  
先輩だけど同じ年だった。

その先輩は高校生くらいから女の格好をしていたらしい

成人式はもちろん振り袖だったらしい。

写真も見せてもらった。

ハッキリ言って悔しかった。

羨ましさで、自分は今まで何やってたんだ！  
という悔しさがぐちゃぐちゃに絡まっていった。

くやしくてたまらなかった。

自分と同じ年で、かたや私は男として生活。  
最近女装はじめました一程度のレベル。

かたや先輩は既に性転換手術を終えて、  
戸籍の性別を女性にする手前という状態。

女性で生きている期間は先輩の方がはるかに長かった。

ちくしょうと思った。

私は高校時代、自分のホンネをオモテに出すのが怖くてずっと男の生活に甘んじていたのかもしれない。

自分がやりたいと願っていることがあるのに、そのために行動できなかった。

行動しないがために苦しみ続けてしまった。

先輩は早い段階で自分のホンネをさらけ出して生きてきた。

状況は私と変わらなかったんだろう。

もともと男で生まれて、男で育って。

学校でも家でも男だった。

でも、恥ずかしかったかもしれないが、勇気を出して行動して自分のホンネを出して生きた。

その結果が今につながっている。

私ももっと早い段階で行動していたら…！

くそう！

そんなことばかり。

ニューハーフクラブの先輩たちは美女が多かった。

美女じゃない先輩もいたが（苦笑）

半数は美女だった。

今までずっと男で美容師やってたけど、  
やっぱり諦めきれなくて25歳で女性ホルモン開始して、  
ニューハーフクラブに最近入ったという26歳の先輩（当時）

中卒後すぐに沖縄のニューハーフクラブで働いていたんだけど、  
引き抜きに会って名古屋のニューハーフクラブで  
ナンバーワンやってる23歳（当時）の先輩

去年まで仮面ライダーショーの中の人やってたけど、  
諦めきれなくてニューハーフになった28歳の先輩（当時）

お店にはいろんな先輩がいた。

ついこの間まで男として  
会社に勤務してたとは思えないほどキレイだった。

人間は変われるんだなと感じた。  
しかもかなり短期間で変われる。

変わる度合いは個人差があれど、  
本人のやる気と努力で変わるんだなと思った。

私はそんな先輩たちに囲まれてニューハーフの世界を生きていった。

今思えば幸運だったと思う。  
お手本となる人達に囲まれて成長することができた。

自分とは雲泥の差があるほど上にいる先輩たち。

そんな人達の背中を見ていたから、  
自分のレベルが低いことも自覚できた。

「早く行動しなきゃ！」

って焦ることもできた。

この環境に居なかったら、  
女で生活できるまで何年かかったかわからない。

もしかしたら、今だに男で生活してた可能性もある。

世の中の不平不満をたらたら言うだけで、  
行動しない人間になっていたかもしれない。

運が良かったんだなと思う。

ちなみに、このニューハーフクラブで一番お世話になったのは  
2歳年上で、ナンバーワンをやっていた先輩だ。

仮に名前をAさんと呼ぼう。

Aさんはナンバーワンなだけあって、  
給料が毎月40～50万円あったらしい。

Aさんは稼いだお金を自分の美容と  
お客さんとの人間関係に使っていた。

例えば、見た目を維持するために毎月1回は美容外科で  
美肌になるレーザーやら、施術を受けていた。

服装やメイク用品、カバンなどにも金を使っていた。

最初はただ、贅沢をしているだけに見えたんだけど。

ずっと一緒に仕事しているとだんだん見えてきた部分もある。

先輩は贅沢してたんじゃなくて、  
自分という商品の魅力を高めていたんだと思う。



お店のナンバーワンを維持するためには、  
お客さんから選ばれ続けなければならない。

つまり、美しくありつづける必要があるし、  
可能なら更に美しくなったほうがいい。

そして、お客さんとの人間関係も大事だ。

先輩Aさんは、休みの日であってもお客さんと食事に行ったり  
飲みに行ったりしていた。

本人はあまりお酒が強くなかったし  
「面倒くさいわ〜」と話していたけど、  
お客さんに誘われたら休みの日でも、  
仕事が終わった後でも飲みに行っていた。

そこらへんのプロ根性はものすごかった。

いつも鼻肩（ひいき）にしてくれるお客さんに対しては、  
誕生日にプレゼントを送ったり、  
バレンタインデーにプレゼントを送ったりしていた。

プレゼントの内容は三万円するブランドのマフラーだったりした。

一緒に買いに行ったのでよく覚えている。

ちなみに、そのプレゼントの代金は全部自腹だ。

会社だったら接待交際費になるのかなあ

お客さんとの人間関係を続けるため、  
今後も鼻屑にしてもらうため、選んでもらうため  
そのための人間関係にお金を使っていた。

そんな感覚が1ミリもない私にとっては新鮮だったし、  
プロの世界を見ているようで興味深かった  
「いやーでも、私には無理だ。」

「お金ないし、お客さんもないし」

しかし、当時はそう思ってた（苦笑）

だからいつまでたっても顧客がつかなかったんだと今では思う

ニューハーフクラブでの勤務が1年半を過ぎた頃

mixiというSNSを通して、ペルー人と知り合う。

厳密には沖縄とペルーの血が混ざっていて、クォーターらしい

沖縄 1 : ペルー 3

四分の三がペルーの血

見た目はまさにペルー人だ。

しかし、名古屋で育ったので、言葉は名古屋弁だった。

私は名古屋にニューハーフ以外の友達が居なかった。

それにニューハーフ業界に疲れてきてた時期だったのかもしれない

とにかくニューハーフとは無縁の友達が欲しかったのかもしれない  
それにそのペルー人の友人は優しくて会話も面白かった。

仮に名前をDくんとしよう。

Dくんに恋をすることはなかったが（笑）

Dくんはノリが良いので一緒に飲みに行ったり  
カラオケに行ったりして遊んでた。

**何！？会社で働かなくても稼げる…だと？**

Dくんは今までの友達と違う部分があった。

「お金」に詳しくなかったんだ。

Dくんが生まれたのはペルーだったのだが、  
家は貧乏で生活に超困っていたらしい。

Dくんが8歳の時、Dくんは  
家族と一緒に日本へ引っ越してきたらしい。

日本に移住した理由は忘れたけど、  
たぶんおじいちゃんが日本人だったのと、  
日本のほうが仕事があるからだったような。

詳しくは忘れたが、Dくんは日本へ移住した。

しかし、日本では外国人の差別が強くて  
仕事もけっこう限られていたらしい。

やっぱりDくんの家も貧乏だったらしい。

そしてDくんは中卒か高卒か忘れたけど、  
社会人になって自分でお金を稼ぐようになった

そして、ステキな女性と出会い、恋に落ちて結婚。

子供が2人できた…

のだが。

色々あって離婚したらしい。

そして、子供2人の養育費を稼ぐため仕事を頑張ってるらしい。

つまり、Dくんは生まれてからずっと金に困っていて、  
その時もお金に困っていた。

それで、お金稼ぎ情報などを自分であれこれ調べまくったらしい。

そんなDくんが私に「金持ち父さん貧乏父さん」  
という本を進めてくれた。

私も昔から貧乏だったし、  
性転換手術したいと思っていたので金には困っていた。

同じ貧乏家庭で育ったDくんには共感する部分もあったし、  
面白い友達だったから、本を読んでみた。

「金持ち父さん貧乏父さん」は  
従業員しかしたことがない人間にとっては、  
世界観を一変させてしまう影響力がある本だ

本によると、世の中にはお金の稼ぎ方は大きく4種類あるらしい

- 1) 投資家
- 2) ビジネスオーナー
- 3) 自営業
- 4) 従業員

この中で（4）の従業員は時間も自由にならなければ、お金もぜんぜん稼げないというデメリットがある。

私は今まで生きてきて「従業員」しかやったことがなかった

ていうか、お金を稼ぐといえば会社で働くことだろ？と、何にも疑問を持たずに生きていた。

しかし、実際は全然違うらしい。

そう言えば、テレビを見れば世界には大富豪や金持ちがいて、彼らは月収数百万とか数千万円とか言っているじゃないか。

彼らがなぜそんなにお金を持っているのか？

どの会社で働いたらそんな給料もらえるっていうんだ？

ずっと長年謎だった。

謎の答えが本に書いてあると感じた。

詳しく書くと本が2冊書けるくらいの情報量になるので、

詳細は「金持ち父さん貧乏父さん」を読んで欲しい。

私は本を読んでみて目からウロコだったし、  
人生の希望がどんどん花開いていった。

これでお金稼げば性転換手術のお金もすぐ稼げるじゃん！

そう思って目がキラキラしていた。

そんなある日。

Dくんから「面白い話がある」と言われ、  
あるビジネスを紹介された。

それは「ネットワークビジネス」というものだった。

2人を紹介して、その2人が更に2人を紹介すれば、  
それがどんどんネズミ算式に増えていって…

というビジネスだ。

「テレビで聞いたことある！」

ようするに「ネズミ講」だなと感じた。

うわー超怪しい。

Dくん、そんなものに手を出したら人としてダメでしょ。  
犯罪だよそれ。

そう思って私は聞く耳をもたなかった。

犯罪の片棒をかつぎたくなかった。

逮捕されるんじゃないの？  
怖くなった。

Dくんは熱心に説明を続けた  
「怪しいけど、これ合法なんだよ。」

え？ うそ

「犯罪のネズミ講とはちょっと違うんだよ。」  
「ネットワークビジネスって言って、これは合法」  
「ネズミ講とは違う」

信じられるはずがなかった。

怪しさ満点である。

このペルー人め、さては  
ネズミ講に誘うために近づいてきやがったんだな！



正直そう思った。

「嘘だと思うなら調べてみるといいよ」

「やるかやらないかはミサキちゃんに任せる」

Dくんはそう言って私の判断に任せると言った。

※ちなみに当時の源氏名は「ミサキ」だったので

「ミサキちゃん」と呼ばれていた

私は悩んで悩みまくった。

ネットで情報を探したり、

友達に電話して聞いてみた。

そういえば昔、会社の同僚が似たような話をしてたなあ  
と思って電話してみた。

元同僚のお兄ちゃんの友達がやってたらしい。

元同僚のKくんは

「やりたいんだったら一度やってみてもええんやない？」

「で、ダメだったら辞めりゃいいと思うし」

そう言ってくれたので、やってみることにした。

怪しさマックスだったけど、ネットで調べてみたところ  
とりあえず合法だということは分かっていたのもあるし、  
単純に金稼ぎたかったからだ

私は23歳になっていた。

ネットワークビジネスはいろいろ仕組みがあれこれあって  
とりあえず最初に23万円分くらいの商品を購入しといたら  
報酬率が高い状態で始められるとかなんとか。

というわけで23万円支払って準備をした。

内心「うわーやっぱ騙されてるわー」とか  
「消費者相談センターでよくある手口だわー」  
と、思っていたけど、とりあえずやってみることにした。

リスクはあるけど、可能性にかけてみたんだ。

もし詐欺だったら23万円損するけど、  
本当だったらこれで数百万稼げるかもしれないし。

可能性にかけてみた。  
ギャンブルが好きだったわけじゃないんだけど。

未来を見たかったんだと思う。

で。

結論からいうと、ネットワークビジネスは上手く行かなかった  
詐欺だったわけじゃない。

純粹にビジネスが上手く行かなかった。

そして、23万円はカード支払だったので、  
借金だけがのこった

ネットワークビジネスが上手く行かなかった理由。

今の自分の視点で見れば、理由はたくさん見つかる。

その理由を書くだけで本がかけそうな勢いなので  
ここではざっと書く。

シンプルに言うと、私がビジネス初心者過ぎた。

商品を売るとか、ビジネスを作ることに対して  
あまりにも無知だった。

資金力もなかった。

その結果うまく行かなかった。

分かりやすい例だと。

開業資金1000万円を使って、脱サラした人がラーメン屋を作った

…しかし、お客さんがあまりこなくて赤字が続いた

最終的にはラーメンの具材さえ仕入れるお金がなくなり  
お店をたたむことにした。

その結果、開業資金1000万円が借金として残った。

という感じ。

私の場合は1000万円ではなく23万円だったので  
まだマシなケースだと思う。

なぜ経営がうまく行かなかったのか？

なぜお客さんがこなかったのか？

今の自分ならよくわかるが、ここでは主旨が違うので  
別の機会で話そうと思う。

借金は別にいいんだけど。

私はネットワークビジネスで超儲かると思い込んでたので、  
ニューハーフクラブの仕事を辞めていた。

頼みの綱だったネットワークビジネスがダメだったので、  
月収はほとんどゼロ

友達がスナックでのバイトを紹介してくれてたので、  
スナックのバイト代でなんとか食いつないでいたが…

諦めの悪いわたしはスナックのバイト代を資金にして  
ネットワークビジネスを続けていた。

人とあってお茶をしたり、食事に言ったり。

商品を購入したり…

スナックのバイトは日払いで貰っていたので、  
まとまったお金は手元になかった。

だから家賃や携帯代が払えなくなっていった。

そして、家賃や携帯代を滞納していった。

23万円の借金の支払請求も来ていた。

その請求も支払えなかった。

だからどんどん督促状が溜まっていった。

「やばい、金がぜんぜんない」

気持ちは焦るばかりだった。

とにかくさっさとネットワークビジネスで結果を出してお金を稼がなきゃ…

そういう気持ちが先走ってしまって、  
支払はどんどん後回しになった。

焦りすぎて自分の状況が冷静に判断できてなかったんだと思う

気づいたら家賃、携帯代、  
借金の支払を3~4ヶ月分滞納していた。

毎日カード会社から電話がかかってきた。

「支払はまだですか…？」

「今日中に支払わないと管理会社が変わるため…」

「いつまでにお支払できますか…？」

毎日毎日電話がかかってきた。

私の携帯電話は取り立て専用の携帯電話になっていた。

カード会社以外から電話がかかってくることはなかった。

「思っていたのと違うな…」

「やっぱりどこかの会社に就職するべきだろうか…」

「ホームレス生活ってどんななんだろう…」

## 母のスネをかじって甘い汁を吸うダメな大人

そんなことを思い出していた時、  
債権取立専用だった私の携帯に母親から電話がかかってきた。

「お母さんの職場で働いてみないか？人手が足りないんだ」

願ってもないチャンスだった  
母は神奈川県箱根町（はこねまち）にある  
大学の保養所施設で働いていた

そこの従業員が辞めてしまい、新しい働き手を探しているとのこと。

仕事内容は、料理を作ったりする厨房の仕事が多いらしい

過去に飲食業界にいた私はそれなら自分でも働けると思って  
二つ返事で働くことに決めた。

母親の電話がなかったら、  
私は今頃名古屋でホームレスをやっていたかもしれない。

ほんとうにありがたい。

というわけで箱根で働く事になった。

箱根の仕事は、大学の保養所なのもあり、  
夏休み、冬休み、春休みシーズンは仕事が超忙しいのだが

それ以外はけっこう暇だった。

私が箱根で働き始めたのは2月1日からだったので、  
まだシーズンオフらしく、仕事もヒマだった。

借金苦で家賃もカードも携帯電話も滞納しまくっていることが  
母親にバレたので、会社の給料はほぼ全部  
借金返済に回すことになった。

私はまだネットワークビジネスを諦めていなかったので  
活動資金としてお金が欲しかったけど、  
そんなことを言われる状況じゃなかったのもので  
母の言いつけに従うことにした。

ちなみに



携帯代は7万円くらい滞納してて、  
家賃は20万円くらい滞納、  
カード会社への借金は35万円くらいになっていた。

それにプラスして、豊胸手術の支払をキャッシングしてたのと、  
収入がない間の生活費をカードキャッシングしてたので  
借金総額は100万円程度あった（汗）

純粹にヤバイなと思った。

「ていうか性転換手術できるんじゃないの？」  
って思った。

ネットワークビジネスなんてやらないで  
性転換手術やるときゃよかったと思ったが、時すでに遅しだった。

話をもどす。

箱根では給料をほぼ全部借金の返済に当てていた。

だが、私はもっと金が欲しかった。

給料のほぼ全てが借金の返済に飛んでいくので  
欲しいものもなにも変えない。

性転換手術したい気持ちは強かったので、  
とにかくこの状況でももっと稼ぎたいと思っていた。

収入を増やしたい欲求はだれにでもあると思う。

お金が少なすぎて困ることはあるけど  
お金がありすぎて困ることはないからだ

私も箱根でネットワークビジネスをやれないかと試行錯誤したが、  
交通アクセスの悪さ、人口の少なさ、  
資金力のなさでとうとう挫折した。

ネットワークビジネス以外でお金を稼ぐしかない。

この時始めてネットワークビジネスを諦めた。

そして、ネットでお金稼ぎ情報を探すようになった。

そういえば高校時代からずっと  
困った時はネットで情報を探していた。  
性同一性障害で悩んだらネットで検索。

病院探しも女体化情報もネットで検索。

ネットワークビジネスが怪しいと思ったらネットで検索していた。

当時は、お金がなくても、人脈がなくても、  
家でできるお金稼ぎはないか？

と、ネットで調べ続けていた。

ネットで調べれば何か答えが見つかると思っていた。

そして、答えを見つけた。

ネットビジネスだ。

ネットワークじゃなくて、ネットビジネス

ネットが繋がるパソコンがあれば稼げるらしい。

怪しい。

怪しいけど、ネットワークビジネスで  
怪しいものには慣れていた。

ネットビジネスはネットワークビジネスほど  
お金がかからないらしい。

レンタルサーバー？独自ドメイン？

聞きなれないことばが飛び交っていて意味不明だったけど。

とりあえずお金はあまりかからないらしい。

月額数百円から数千円程度らしい。

しかも、無料でもできるらしい。

当時は本当にお金がなかったので無料ブログから始めた。

財布の中にあるお金は数百円とかそういうレベル。  
給料はそのまま借金の返済へ。

コンビニ行くのは督促状の支払をする時だけ。

そういう生活をしていたので、  
月額数百円のレンタルサーバーなんてとても支払えなかった。

ネットを探すと

「メルマガだけで稼ぐ」

「ブログで稼ぐ」

「アフィリエイトで稼ぐ」

みたいな情報がそれなりにワンサカ出てきた。

実際に「アフィリエイト頑張ってまーす！」  
みたいなブログもけっこう発見した。

私もそんなブログをマネしてブログ記事を色々書いてみた。

正直面倒だった。

何書けばいいかわかんなかった。

テキストに1記事書いてはみたが…

「こんなクソみたいなブログで本当に稼げるの？」

未来が見えなかった。

何書けばいいかわからないし、どうしたらいいかわからないので  
ネットで色々と探すことにした。

お金はないが時間はあったので、とにかく情報を探しまくった。

その時の経験があって検索能力は身についたと思う。

調べた所、ネットで商品を紹介してお金を稼ぐ

「アフィリエイト」という方法があるらしい。

ネットワークビジネスも商品の紹介をするので似てるなあと感じた。

アフィリエイトはただ商品を紹介するだけではダメで、  
お客さんに「欲しい！」と思ってもらうことが大事らしい。

じゃあその「欲しい！」と思ってもらう方法は??

詳しくはこちら→商品ページ。

「んだよ！」

「結局商品買わなきゃいけないじゃん！！」

チロルチョコさえ買うのを躊躇する私は商品が買えなかった

買いたかったけど現金がなかった。

無料でできることを探すしかなかった。

色々めっちゃめっちゃ探したけど、  
やっぱり有料の商品を買ったほうが手っ取り早いし、  
情報量が違うからそのほうが稼げる。

結論はそうだった。

でも金が無かった。

だから、毎日の借金支払金額をすこーし減らして、  
そのお金を使ってネットビジネスの教材を買うことにした。

2011年だった。

## 「金を使わず金を稼ぐのが正義」ではなかった

その当時は今ほどいい情報がなくて、  
詐欺の教材もバンバン売られてた

今よりも規制が緩かったし、iPhoneなどのスマホが  
まだ一般的じゃなくてクチコミも今ほど広がらなかった。

そんなこともあって、詐欺教材がはびこっていた。

「どうしたら詐欺教材を買わないで済むのか？」

「優良教材と詐欺教材の見分け方」

みたいな情報がネットビジネス業界では飛び交っていた。

今は

「どれがコスパいい教材なのか？」

とか

「初心者におすすめの教材はどれか？」

つまり詐欺教材はほぼ撲滅されている気がする。

消費者としては選び放題なのが現状。

いい時代になったなあ

私は参考にしていた起業家さんが紹介していた教材を購入した

当時の価格で1万4000円くらいだったけど、  
わたしにとっては大金だった。

この商品を購入するのに2~3ヶ月貯金した

で

教材の内容をざっくり説明すると

「ネットビジネスの教材を比較するサイトを作りましょう」  
という内容だった。

えーと。

つまり、この購入した教材以外にも、色々と教材を購入して。

その教材のレビュー記事を書いてアフィリエイトしましょう。

ということです。

つまりですね。

もっとネットビジネス教材を買わないとお話にならない。

という状況



おい、まじか。

やっと金ためて購入したのに、  
もっとたくさん買わないとダメなのか・・・orz

けっこう挫折した。

ネットビジネス挫折しかけた。

挫折しかけたけど、諦めても収入は増えないし。  
現状なにも変化のない毎日だったから。

とりあえず、無料情報を探しまくって  
自分なりにやってみようと思った

今思うのだが、このお金がなかった時代の影響で

「お金使わずやるのが正義！」

という価値観が出来上がってしまったと思う。  
そのせいで、その後のビジネスの収入に大きな悪影響が出ていく。

たとえば、情報は無料のものより有料で購入したもののほうが  
情報量も多く、中身も詰まっている。

映画見てきた人に映画の内容を無料で教えてもらうよりも、お金を支払って映画見たほうが、より映画について知れるのに似てる

私は金なかった時代の悪影響がひどすぎて、それなりにお金を持っている時期になっても無料で乗り切ろうとするようになった。

その結果、うわべだけの薄っぺらい情報しか得ることができず稼げない時期を余計に伸ばしてしまった。

情報だけじゃない。

たとえば、ブログの見栄えを良くしたり、情報を見つけやすくするためには、有料のテンプレートを買ったほうがいい

テンプレートというのは、ブログの外観を変えるものだ。

今で言うとLINEのテーマみたいな感覚。

うさぎのテーマにしたり、熊のテーマにしたり。有料のテーマも売ってるけど、ブログにも似たような感じでテーマが売られている。それがテンプレート

ちょっと難しい話になるが、  
webのページはHTMLという言語で記述されているので、  
HTMLなどに詳しくれば、  
お金をかけずにブログのテンプレートを変えることができる。

ただ、これは専門知識が必要だし、  
手間と時間がかかる。

テンプレートの販売や開発を主な職業としているのであれば、  
自分でテンプレートを作るよりも、  
プロの作った商品を購入して使ったほうがいい。

身近な例でいうと、スマートフォンを自作する人はあまりいない。

自作よりもiPhoneなどを買ったほうが  
自作よりも高性能で便利なスマホが使えるからだ。

自分がアップルで働いて、  
iPhoneの制作開発をしているのでもなければ、  
自作するのは非効率だからだ。

だけど、私はブログのテンプレートを自作していた。  
ブログのテンプレートは数千円から数万円まで幅広い

私は無料のテンプレートをベースにして、

自分でオリジナルテンプレートを作っていた。

すごく非効率。

でも、当時はその非効率さに気づけなかった。

テンプレートの修正に1日かかることもあった。

1日かけて修正したテンプレートは有料のモノには叶わなかった。

私が目指しているのは「お金を稼ぐこと」であって  
テンプレートをプロ並みに作ることはなかった。

なのに、稼ぐことよりもテンプレートを作ることに熱中してしまう。

目的とはぜんぜん違う方向に進んでるのに  
当時の私はぜんぜん気づけなかった

ネットビジネスを解説している人のブログでは  
「お金を出して買ったほうが効率いいし、クオリティもいいですよ」

「とか、お金で時間を買ったほうがいいですよ」  
と、説明してたんだけど。

私はぜんぜん聞かなかった。素直じゃなかった

自分のブログだから自分で1から10まで作ることに意義がある

などと、自己満足の世界に走っていった。

ブログ訪問者のことは考えてなかった。

自分優先、自分の考えがすべてだって思っていた。

だからぜんぜん稼げなかった。

そんなある日。

どんなに努力しても稼げないので、  
そろそろ自分の方向性が間違っていると自覚しはじめた

とりあえず教材に書いてあることを初心に戻って  
素直に実践してみることにした。

ネットビジネス初心者が稼げるようになるまでを  
解説している教材なんだから、  
素直に実践したら少しはお金が稼げるはずだ

そう思って素直に実践することにした。

その教材は自動で配信されるメルマガを使って  
商品売るという内容の教材だった。

販売者はネットビジネスをやる前に営業の仕事をしていて  
そこで先輩から学び、自分でもやってきたノウハウを  
ネットビジネスに応用させたのだという。

音声だけの教材だったので、  
YouTube動画を見るような感じで音声を聞きまくった。

音声を聞いてみると、たしかにそういう流れで商品の紹介をすれば  
相手は欲しくなるよなあと感じる内容だった。

自分でも欲しくなるなコレ。

なんだか納得したので、  
自分も教材で話している通りにやってみることにした。

当時、私はとりあえずメルマガをやっていた。  
読者が30名くらいいたと思う。

そのメルマガで商品の紹介をしてみたら  
以外にも商品がさらっと売れてしまった。

会社員時代。

お客さんから注文をもらうことがあったけど。  
注文をもらっている時のような感覚。

当たり前のように商品が売れてびっくりした。

え

商品売るのがって、意外と簡単なのかもしれない。

それがキッカケとなり

私はネットでの収入を増やしていった

## 天狗の鼻を根本からへし折られる

それから1年後

私はネットの収入である程度生活できるようになっていた。

とはいえ、まだ生活がラクではないのでアルバイトなどはしていた。

1年過ぎても大きなお金が稼げなかった理由。

それはめっちゃくっちゃ要因があると今では気付ける。

当時は気づいてなかったけど（汗）

今はわかる

まず、相変わらず自分でなんでもやろうとしていた。

お金を支払って、作業を効率化するとか、

自分の知識を増やしたり、能力を伸ばすために自己投資しようという気持ちが薄かった。

この時期でさえまだ何もかも自分でやろうとしていた。

収入を増やしたいけど、お金を使いたくないから使わない。そうすると逆に収入が増えないという悪循環だ。

今、わたしは大きな金額を稼いでいる起業家さんと交流する機会が増えたんだが、お金稼いでる起業家さんは成長するためにはお金を惜しまない。

自分が成長すると感じたら、本だろうがKindleだろうがセミナーだろうが、ネットで売られてる情報商材だろうがとにかく片っ端から購入して情報を吸収しまくっている。

「毎日本を3冊読むように意識してます」

と言う起業家さんもいる

「5分あれば本読むようにしてます」

「携帯は使っちゃうからほとんど電源落としてます」

「時間泥棒なんでテレビは捨てました」

とにかく、成長するため、知識を増やすための行動がハンパなかった

こりゃ稼げるわけだ・・・  
純粹にそう思う。



私はそんな起業家さんと出会って、まだまだ足元にも及ばないが本を読むようにしたり、自分の成長を意識して行動するようになった。

そしたら収入も増えていった。

と、まだその話は早いので、今はネットビジネス1年後の話に戻ろう

お金が欲しいのに、ケチのあまり自分の頭脳や能力にも、自分のビジネスのためにも金を使えなかった私は、あまり稼げなかった。

それまでは1円も稼げなくて悔しさで行動していたが、この時期はある程度収入があったので、「別にいいか」と思うようになっていった。

しかも「自動化・仕組み化」を少し学んで実践していたので、働かなくてもあるていど収入があり、バイトも1週間に2~3日しか出勤していなかった。

「何もしなくても自動で稼げるから私すごい！」

って、思っていた。

天狗になっていた。

ネットからの月収は当時で10～15万円程度だった。

贅沢をしなければ生活できるレベルだったので、  
余計に自分を天狗にさせていたと思う。

今の自分から言わせると

「たかだがその程度でなにを天狗になっているんだ、若造が」  
と思うが、天狗になりすぎていた。

「働いたら負けかと思う」

というネットの用語をよくネタで使っていた。

ビジネスの自動化や仕組み化を進めていけば、  
確かに働かなくても生活できるようになる。

しかし、自動化の仕組みを作るまでには働く必要がある。

当時の私は、自分自身で自分の可能性を奪っていたと思う。

努力すればもっと収入を増やすことができ、  
その方法もある程度知っている。

時間もあつたし、お金もゼロではなかったはずだ。

なのに現状に甘えまくっていた。

サバゲーの趣味を始めたのもその頃だった。

サバゲーは今でも好きなので、  
サバゲーそのものを否定するつもりはないが、  
優先順位が違うだと今では思う。

しかし、当時は甘えに甘えまくっていたので  
そんな現実を直視しないようにしていた。

ホンネを言うと性転換手術もしたかったのだが、  
現状に甘えていたのと、サバゲーが楽しくて  
どんどん後回しになっていった。

その頃はもうYouTubeで顔出ししつつ情報発信していたので、  
ネットでは私のことを知っている人もいた。

時には

「みさきさんはまだ性転換しないんですか？」という質問もあった。

その度に私は「まだ資金が足りなくて…」と言い訳していた。

本当のことを言うならば、資金が足りないんじゃなくて、  
自分にはその金額を稼ぐ能力がないだけだったのに

言い訳をするたびにココロにグサッと刺さるものがあった。

しかし、直視しないようにしていた。

現実から逃げまくっていた。

そうやって3年ほどが過ぎた

この3年間、私はやはり現状に甘えて働かなかった。

メルマガの配信やYouTubeは続けていたが、  
それは過去の延長線上でしかなかった。

今までやり慣れていたことを続けていただけで、  
自分の成長はほとんどなかった。

その間もお客さんからの感謝のメールなどは頂いていた。

自分では自覚がなかったが、  
人様に感謝されることはできていたらしい。

収入も少しずつ増えていた。

私が働かなくても、安定して収入が  
自動で入ってくる仕組みを作っていたからだ。

その点、ネットビジネスはすごいなあと思うが、  
私は相変わらず現状に甘えた人間だった。

ココロでは「ネットで自動で稼ぐ自分カッコイイ！」と思っていた

そのくせ、性転換手術はできていなかった。

やらなかったんじゃない。

まとまったお金が確保できなかった

「ネットでそんなに稼いでるのになぜ性転換しないんですか？」

「MTFを搾取して金稼いでる詐欺師め！」

そういう批判ももらうようになってしまった。

私としては搾取なんて全くしていないし、

そもそも生活費を稼ぐ程度であり、そこまで稼いではなかった。

しかし、「自動で稼いでます」みたいなことを

ネットで言って、楽しんで稼いでるオーラを出しているのに、

性転換手術をしてなかった

だから、そう勘違いする人が出てしまうのも

自分の責任かなと思うようになった。

説得力が足りないと思った。

そんな「ある意味激励」をもらうようになり、

私もそろそろ本気で行動しないとヤバイなと感じるようになった。

4年ほど楽しんで、現状に甘えて生きてきた。

でも、これじゃ過去の延長線上であり、生活に変化がない。  
性転換手術だっていつできるのかわからない。

性転換手術をやろうと決意し、本気で行動した21歳。  
あの時ほど今の自分は行動しているだろうか？

いや、ぜんぜん行動していない。

全く持って気合も根性も足りていない。

別に気合や根性論が好きなのじゃない。

むしろ、そういうのはうつ病の原因になるから実は大嫌いな私

にしても、気合や根性がなくなっても出来ることはある。

毎日ごはんを食べて。

YouTube見て、メルマガ書いたり、  
ブログ書いたりしてるじゃないか。

歯磨きだって毎日欠かさずやってるし、お風呂も入るじゃないか。

そうやってずっと継続してやってることがある。  
身体を動かして行動しているじゃないか。

だったら、その方向を少しずらして、

自分が豊かになる方向へ向ければいいじゃないか。

自分が成長し、学べる方向へ向ければいい。

気合がなくても、モチベーションが上がらなくても、  
うつ病寸前でも、できることはある。

そう思った私は、とうとう重かった腰をあげることにする。

ほんと重すぎたと思う。

ちょっと自分を甘やかし過ぎていた。

甘やかしたお陰でうつ病もよくなってきたのはある。

だから自分で自分を甘やかすのは悪くないんだけどさ

そろそろ

本気出してもいい頃かなと思った。

**仕事に恐怖し、恐怖に恐怖し、ダメ人間になる毎日**

28歳の冬くらいから自分の仕事ぶりを改善することにした。

それまでは墮落した生活に慣れすぎていて  
「仕事」という言葉に恐怖を覚えるくらいだった。

だから「仕事しよう」と口にするだけで、  
嫌な気分になってしまい、パソコンの前に向かうのも嫌気がした

不登校とか引きこもりレベルだと思った。  
そして、実際に私は家に引きこもってて  
外に全然でない人間になっていた。

むしろ外でバリバリ働く人が羨ましいとさえ思っていた

それまで、あまりにも働くことや、  
行動することをしなかった私は、行動筋肉が貧弱になっていた。

1週間で6日も働くの…？まじか、すごすぎだろ…

友達のMTFの話を聞いて純粹にそう思うレベルになっていた。

こんな事を話すと反感をかうかもしれないが、あえて書く。

とにかく外に出ることや行動することが  
億劫（おっくう）を乗り越して「恐怖」になってた。

不登校とか、引きこもりの人はこういう感覚なのかもしれない。



生活保護の人と話したこともあるが、  
「生活保護」という劣等感や、社会に対する  
「申し訳ない気持ち」が大きすぎて、逆に働けなくなるらしい。

100%の生活保護受給者がそうなるわけじゃないが、  
動かないことで行動筋肉が落ちていき、  
劣等感から更に自分の行動力が落ちて行くのだと思う。

私も劣等感はかなり強かった。

「自動で金を稼いでいる」と聞くと、  
世間では「すごい！」と思われる世界のようなのだ。

実際、べつにそこまですごくはない。

自分が学んだことを実践しただけだ。  
マニュアルはネットで売られているし、そのマニュアル読んで  
自分なりに仕組みを作っただけだ。

それで年収が数千万とか、数億円ならすごいと思うが  
私はそんな年収ではなかった。

で、劣等感。

劣等感は収入の少なさもそうだが、  
それ以上に「働けない」ことが私の劣等感を更に強くしていった。

「働きたくない」と思ってビジネスを自動化したのに、  
自動化したせいで「働けなく」なっていた。

自慢じゃない。働くことが恐怖になっていったのだ。

気持ちとしてはどんどん不安が強くなる。

普通の人には働けるものだ。

私は健康なのに、働けない。

心が弱いんだと思ったし、精神面が弱いんだと思った。

それに、ダメ人間だと感じるようになっていった。

仕事をしようと思っても、パソコンに向かうことができないうらい  
パソコンに恐怖を感じていた。

そして現実逃避して布団でYouTubeばかり見てた。

そうやって1日が終わり、何も変化していない日常が過ぎていくと  
更に自分のダメさ加減を思い知るようになる。

「全く仕事ができない…！昔はできたのに…！」

劣等感が強くなっていき、  
仕事コンプレックスみたいになっていった。

「自分はダメ人間だから仕事できない」

いつしか、そう言い訳するようになっていった。

それで、うつ病寸前みたいになり、  
仕事よりもうつ病の改善方法を調べるようになった。

うつ病というか、自分に対する自信のなさ。

自己肯定感の低さ。

それを改善するには、小さな成功を積み重ねるのがいいらしい。

そして、行動のハードルを下げるのがいいらしい。

精神科医が書いた本や、精神病の本、自己啓発の本を読みまくり  
なんとなく答えが分かってきた。

つまり「完璧主義」を辞めることが大切らしい。

私はそれから「ダメな自分でもやれることはないか？」と  
行動のハードルを下げてみることにした。

心の奥ではまだまだ「自分はダメ人間だ」と思う気持ちは抜けない。

だから、実力も才能もない、働きもしないダメな私でも

出来ることはなんだろう？と思うようにした。

そうすると気持ちのハードルが下がったし、  
ダメな自分でも生きている価値があるような気がしたからだ  
うっ関係の話は長くなるので省略する（汗）

そうやって私は行動のハードルを下げて、完璧主義をやめることで  
少しずつ仕事ができるように回復していった。

そのころ、前から気になっていた  
起業家さんの情報で学ぶようになり、  
その起業家さんの商品を買って学ぶようになっていった。

起業家さんがいうには「学ぶこと」が大事とのこと。

自分が成長することがお金に繋がるとのこと。

過去にいろんな起業家さんが似たような話をしていたが、  
やはり学ぶこと、成長することは大事なんだ。

今まで全然意識してなかった自分に気づいた。

そして、「学ぶため」には  
「繰り返す」ことが重要だとも起業家さんは話していた

人間の脳は接触回数が多くなれば多くなるほど、  
記憶に焼き付くらしい。

ヤマダ電機のCMソングを聞きまくれば…  
そう、自然と覚えてしまうのもそういう理由。

私はその頃から

- ・ 完璧主義を辞める
- ・ 繰り返しやりまくる

以上を意識して行動するようになった。

別にちゃんとやらなくてもいいし、テキトーでもいい。

回数をこなすことを意識して取り組めばいいんだ。

そう思ってビジネスにも取り組んでいった。

そして、その結果どんどん稼げるようになっていった。

**ビジネスに出会って、私は死ななくてすんだ**

まだ金額的に見ると、まだまだ未熟者だし  
世の中には私より効率よく稼いでいる人は死ぬほどいる

私もまだまだ自慢できるレベルじゃないのだが、  
ネットビジネスに出会えてよかったと思う。

世の中の収入形態は大きく4種類ある

- (1) 投資家
- (2) ビジネスオーナー
- (3) 自営業
- (4) 従業員

普通に生きてると、(4)の自営業という  
お金の稼ぎ方しか知らないで生きることになる。

そして、お金の苦労して生きるし、会社に管理されて生きる

自分に自由というものはあまりない。

いい会社に務められればいいが、  
ブラック企業でしか働けなければ、一生を棒に振ってしまう。

会社の歯車となり、身体を壊して働けなくなるか、  
自殺や、過労で死ぬまで奴隷のように働くことになる。

ネットビジネスは(3)の自営業的な部分もあるが、  
ビジネスを自動化させてしまえば  
(2)のビジネスオーナーにもなれる

ビジネスオーナーというのは、  
自分が働かなくても収入を得られる収入形態のことだ。

自分が働かなくても収入が入ってくるので、労働から解放される。

人生の自由が手に入る。

また、収入をもっと増やしたいと思ったら、  
ビジネスを拡大させればいい。

自分が働かなくてもお金は入ってくるので、  
ビジネスを拡大させるための時間もお金も用意できる。

従業員にとっては想像もできない世界だ。

ハッキリ言って、今までの世の中では  
従業員がビジネスオーナーになることは、  
環境や条件が揃っていないと無理だった。

また、資金力も必要だったので、大金が必要だったし、  
ビジネスが上手く行かないと大量の借金が残ってしまう。

そんな危険性があるのなら、一生従業員のままでいいや  
そう感じる人がいるのも無理もないと思う。

ネットビジネスはその世界を変えた。

ネットビジネスはネットが繋がるパソコンやスマホがあれば個人でもビジネスができる。

また、店舗や従業員、土地なども必要ないため激烈にお金がかからない

仮に、失敗しても借金が残るほどのお金はかからないので、何度でもチャレンジできる。

また、ネットを通じて世界と繋がることができるため、地域や場所に縛られない。

たとえ、田舎や離島にいてもネットが繋がれば問題なくビジネスができる。

実際、ネットビジネスを始めてから田舎に移住する人もいる。

ネットビジネスの場合、仕組み化することがとても簡単だ。

従業員を雇ったり、大金はたいて設備投資しなくていい

月額数千円のサービスを使えばすぐに仕組み化の準備が整う。

自分が寝ていても、24時間365日仕組みが働いてくれる。

それはまるで自分のために



24時間無休で働いてくれる従業員のようなものだ。

しかも、給料を払う必要はないし、転職されることもない。

作り方さえ知れば、  
小学生だろうとビジネスオーナーになれる。

ネットは地域や土地に縛られないため、  
多くのお客さんを相手にビジネスができる。

実際、私のお客さんの中には、北海道在住の人、  
東京、大阪、名古屋、福岡…などなど日本各地に住んでいる。

フランス在住の日本人からメールが来たこともある。

つまり、日本語が通じる相手なら、世界中でビジネスができる。

ネットビジネスには定年がない。

60歳を過ぎていてもビジネスができるし、  
未成年でもビジネスができる

コミュニケーションがとれる人間であれば、  
プログラミングやITの専門知識も必要ない。

実際私はあまりパソコンに詳しくないので、  
パソコンが動かなくなったりすると業者に電話したり  
友達に連絡して助けてもらっている。

HTMLやCSSなどの専門知識もほとんどないので、  
ネットで売られている商品を使っている。

普段、クルマやバイクを運転している人が、  
クルマやバイクの専門家で、バラバラに分解しても  
組み立てられる知識や技術があるか？  
っていうと、そんなことがないのと同じ。

クルマが動かなかったらJAFなどの専門家を呼べばいいのも同じ

ネットビジネスで使うのはメールなどの文章や、  
お客さんとのやり取り（コミュニケーション）なので、  
日常生活でメールや会話が普通にできる人なら問題はない

ネットビジネスでは、仕事の効率を上げるツールなどもある。

私もツールを使ってブログを書いたり集客している。

慣れないとツールの使い方がわからなくて困惑するが、  
少しずつ慣れてけば問題はないし、使えるようになる。

iPhoneなどスマホも初めて手にした時は困惑したけど、  
今は普通に使っているという人もいるだろう。

そんな感覚だ

「ツールを買うなんてお金がもったいない無い」

私も最初はそう思っていたけど、前述したとおり、お金を失いたくないからと言って、便利なものを買わないと時間もお金も損してしまう。

なんでも自分でやろうとか、自分のよくわからないプライドで買ったらなんか負けたような気になっていたのだが本当に損な考え方だった。

便利なものは使ってみないと、今までの生活が不便だったことに気づけない。

作業を効率化するものに投資すれば、それだけ仕事が早く終わるようになり、自分の時間が増える。

それに、同じ時間でもより多くの作業がこなせるようになるためビジネスの成長スピードはどんどん早くなる。

ビジネス的視点で見ると、「効率化しないことが損」だと言える

私はケチな考え方が抜けなかったために4年近くをムダにしてしまった。

その結果、自分を攻めるようになり劣等感でうつ病寸前にもなった。

でも今は違う。

自分自身や、自分のビジネスの成長のために  
お金はどんどん使うべきだと思えるようになった。

その方が効率よく稼げるし、どんどん便利になり  
どんどん生活が楽になり、豊かになっていくからだ。

お金を使ったほうが収入が増えるなんて  
ウソみたいだけど本当の話だ

もちろんお金は自分を成長させるもの、  
作業効率を上げるものに使わないとダメだ。

息抜きや友達付き合いで遊んだりするのは問題ないけど、  
過去の私のように遊んでばかりだと浪費するだけで  
どんどん自分の生活が苦しくなっていく。

自己投資に使うお金はいいが、  
浪費にはお金を使わないことが重要だ

これは「金持ち父さん貧乏父さん」の作者である  
ロバート・キヨサキ氏も本の中で口酸っぱく言っている

自己投資が大事だ！

頭のなかで分かっているけど、  
そもそも「自己投資とは何か？」がわかってないと浪費してしまう

自己投資とは、  
自分を成長させてくれるものにお金を使うことだが  
ビジネス的な視点で見ると「それは収入UPになるのか？」と  
自問自答する必要がある。

たとえば、仕事で使うバッグを傷んできたので、  
長持ちするバッグに買い替えたとする。

営業職など、お客さんと接する仕事であればそれは自己投資になる。

お客さんの印象が良くなるし、印象がよければ、  
それから仕事に繋がることもあるからだ。

似たようなケースだと、夜の仕事をしている人が、  
自分のメイク用品や、アンチエイジング、美容にお金を使うのは  
自己投資だと言える。

なぜなら、見た目を良くすればお客さんの印象も良いからだ。

私がニューハーフクラブで働いていた時の  
先輩Aさんはまさにこれで、自分の見た目を良くすることには  
お金をバンバン使っていた。

今だとメイク動画をUPしているYouTuberがいるわけだが、彼らもメイク用品、美容にお金を使うのは自己投資になる。

そんな風に自己投資は人によって変わってくる。

シンプルに言えば「自分のビジネスを拡大させるもの」に対してお金や手間をかけることが自己投資だと言える。

だからお金を使う時に少し立ち止まって  
「これは私の収入UPのために役に立つのか？」  
と考えるクセをつけておくといいかもしれない。

意識しないと忘れがちなので、  
スマホの待受にしたりして、意識できるようにすると良いかも

私も意識したい事はスマホの待受にしている。

例えば

「本をよむ」  
「仕組みを作る」  
「常に考える」

と書いている

そうすれば、今まで習慣づいてなくて、意識しないと忘れることもスマホを見るたびに思い出すことができる。

とはいえ、ずっと同じ待受にしていると、そのうち待受を見なくなって行くので（汗）

定期的に文面を変えたほうがいいかもしれない。  
（これは私の場合）

今の時代はネットを使えば  
誰でも簡単にビジネスができるようになった。

しかも、ほとんどお金がかからないので、  
今までビジネスに縁がなかった学生や  
低所得者層もビジネスができるようになった。

私のような貧乏人にとってはメリットでしかないが、  
これは格差を拡大させていく。

例えばネットビジネスの存在を知ってビジネスに取り組み  
結果を出し続ける人はどんどんお金持ちになっていく。

会社員の場合、仕事を頑張っても給料はほとんど変わらないが  
ビジネスの場合、仕事を頑張れば収入は増えていく。

そのため、実際に20代で月収が数百万とか数千万円の人が既に増えてきている

人によっては中学生や高校生からネットビジネスを始める人もいるだろう。

彼らは10代の頃からビジネスを始め、どんどん収入を増やしていくと思う。

デジタル・ネイティブではなく「ネットビジネスネイティブ」の世代になるだろう。

会社に努めたことが一度もない。  
アルバイトをした経験もない

なんでそんな効率が悪いことしなくちゃならないの？  
家でビジネスやったほうが、遥かに効率よく大金稼げるのに

大人ってバカだなあ

みたいな10代が登場するのも全くおかしくない

そして、世の中はどんどん機械化と効率化が進むので、単純労働の仕事は大都市圏を中心にどんどん減っていく

工場でただ袋詰の仕事をするとか、ファストフードの仕事などはどんどん人手がいらなくなる。



無人のコンビニや飲食店も登場すると思う。

そうすると、

「仕事がラクになって働かなくても生きていける便利な世界だ」

などと思われるだろうけど、それはビジネスオーナーの話であって  
従業員には無縁の世界だ。

就職難はどんどん加速して行って、  
労働者は少ない賃金で買い叩かれるようになる。

従業員はどんどん貧乏になり、  
ビジネスオーナーはどんどん豊かになる。

格差はどんどん加速していく。

私たちに全く手がないわけじゃない。

ネットビジネスは、低資金でビジネスオーナーになることができる。

なので、ほんの数年前よりも従業員から抜け出して  
自分のビジネスを持つ起業家として生きるハードルは低いんだ。

ただ、

ネットビジネスはハードルが低すぎて、  
いつでもできるメリットがある一方で、  
いつでも辞めれるデメリットがある。

そのせいで、手を出したけど諦めてすぐ辞めてしまう人も多い。

辞めてしまう理由は、今までの「仕事」の世界観と  
「ビジネス」の世界観が違うからだと思う。

今まで、多くの日本人にとっての「仕事」とは、  
「従業員」としての仕事だった。

会社に勤めて、決められた仕事をする。

決められた時間働けば、それに応じてお金がもらえていた。

仕事とはそういうものであり、それがお金を稼ぐということだった。

しかし、「ビジネス」は違う。

ビジネスはお客さんを満足させる商品やサービスを作り、  
それを多くの人に渡すことができればいい。

収入は商品やサービスとお金と交換した数によって増えるため  
効率よく多くの人に届けることができれば、働く必要はない。

逆に言えば、一生懸命働いても

商品が売れなければ1円も稼げない世界が「ビジネス」だ

ちょっとむずかしいと思うかもしれないが、  
従業員として働いている時も、  
会社がやっているビジネスの一部を体験しているので、  
商品売る感覚などは分かる人もいい。  
一生懸命働くんじゃないで、より多くの商品やサービスを  
効率よく多くの人に届けるという考え方が分かっていたら

未経験の人間でもビジネスはできる。

私がそうだ。

それに学歴も関係なくなる。

いい大学を出なくてもで、高卒だろうが中卒だろうが  
ニューハーフであろうが、お金を稼ぐ方法さえわかっていたら  
自由に生きて、お金を稼げる

家族と一緒に旅行に行くから、来週は仕事を休もう。

友達と遊びに行くから、明日は仕事を休もう。

私のようなMTFにとっては、  
性転換手術をするから、来月は仕事を休もう

のような、自由度の高い生活が送れるようになる。

私は「沖縄で本場の三線を学びたい」という  
たったそれだけの理由で、関東から沖縄に移住している。

普通の価値観で言ったらありえないらしいが、  
ネットビジネスだと、どこに住もうが仕事はできるから  
全く仕事に影響がない。

海外に住んでたって日本人相手にビジネスができるだろう。

世の中には

「楽しんで働くのは悪いことだ」  
「人生はお金じゃない」

という人もいる。

それは私もそう思う。

楽なことばかりを選び続けると自分の成長はないし、  
自分の魅力もどんどん下がっていく。

苦しい思いもする。

ただ、「乐すること」と「効率よく稼ぐ」ことはぜんぜん違う

もし、効率よく稼ぐことが悪だと言うのなら、  
運送業や交通機関はその存在を否定されている。

東京から大阪まで新幹線で移動！？  
楽しちゃダメだ！歩け！

なんて事を言う人はいない

事情を知らない人から見ると、  
楽しんで稼いでいるように見えてしまうかもしれないが

ネットでのビジネスは「楽しんで稼いでいる」のではなく、  
「効率よく稼いでいる」のである。

人生は金が全てではない。

しかし、金がなければ人生を送ることができないのも事実だ。

私が小学生～高校生の頃、  
私の母は学校の授業参観などにも出席してくれていた。

休みを取ったり、仕事のあいまに来てくれていた。

もちろん毎回ちゃんと授業参観に来れるわけじゃなかった  
忙しい時期は会社も休みづらいし、

会社を休めばそれだけ収入が減る。

愛する我が子にご飯も食べさせてあげられなくなるかもしれない

だから、仕事を休むわけにはいかない。

そういう日だってあった。

もし、お金があったら、自分の大切な人のために  
時間を作ったり、手間をかけることができるんじゃないだろうか？

私は大学に行く気は全くなかったから別にいいんだけど。

お金がなくて、子供を大学にやれないと嘆く親は  
世の中にたくさんいると思う。

世の中はお金じゃないが、  
お金がないせいで、お金よりも大切なものを犠牲にすることがある

お金がなくて困ることはたくさんあるけど、  
お金があって困ることは何もない。

それは日本が資本主義社会だからだ。

「資本主義」とは「お金主義」という意味である。

「お金が一番大事だ」という考え方のことを「資本主義」という

お金で買えないモノは世の中にたくさんあるけど、  
お金で買えるものも世の中にはたくさんある。

お金があったほうが、人生の豊かさ、  
自由さ、心や身体の状態レベルは格段によい状態を保てる  
特に私のようなMTFにとって、自分らしさを手に入れるため  
お金はとても必要になる。

お金が無ければ女性で生きたいと心から願っても  
女性ホルモン代や、整形手術代が支払えない。

その結果、男として生きることしかできない。

自分がいくら主張をしても、見た目が男なら男でしか生きられない。

男で生きることを社会から強制されてしまう。

また、性転換手術をしなければ、戸籍の性別はずっと男のまま。

「女性として愛されたい」

と、願っていても周囲は男性として扱い続ける。

運命の人と出会うことすらできない。

女性としてのスタート位置にも立てない。

私は貧乏な家に生まれたが、  
少しずつ行動することで、身体を女性に変えていくことができ、  
お金も自分の力だけで稼げるようになっていった。

ここに来るまでは失敗も挫折もあり、借金しまくったり  
墮落しすぎて、性転換のチャンスを失いまくったこともある

自分を責めすぎてうつ病になりかけたこともある  
仕事ができない、ダメ人間で生きる価値がないと思ったこともある

冷静に自分の人生を振り返ってみると  
もったいないことばかりやってたし、  
チャンスを逃しまくったことばかりだ。

でも今は時間的な自由も、  
金銭的な自由も少しずつ獲得してきている。

人間的にも性格が明るくなったと思う

いろんなものを楽しいと思えるようになったし、  
人にも感謝できるようになった。

友達も増えたし、一緒にいると楽しいと言ってくれる人もできた



沖縄に住んでいる今でも、東京の友達がサバゲーしようと言えば東京まで行くフットワークの軽さも手に入れた。

うつ病寸前だった時期は、ビジネスが怖くて嫌なものだったが、今はビジネスを学んだり、仕組みを作ることが純粹に楽しいと感じるようになった。自分が作った仕組みから売上が生まれるのは楽しいし、お客さんから「ありがとう」と言われるのは嬉しい。

新しいことにチャレンジすることや、知らなかったことを学ぶことが楽しいと思える。

ずっと苦手意識があった楽器にもチャレンジしている。  
(三線という楽器)

そして、あるていど三線も演奏出来るようになってきたし、素人レベルは卒業したと自分でも思う

これも完璧主義をやめて繰り返しを意識したらすんなり上達した。

この経験は私の自信に繋がった。

今まで、ビジネスでわからない用語や難しい内容の情報からは逃げていた。

「何度読んでも意味がわからない」

そう思って学ぶことから逃げていた。

今の自分にはなぜ意味がわからなかったのか  
成長できなかったのかが分かる。

それはやっぱり完璧主義になりすぎて  
ちゃんとやろうと意識しすぎていたんだ。

その結果、シッカリ学ぼうと思うあまり、手が出せなくなり  
精神的なハードルがどんどん上がってしまい、  
ビジネスを学ぶことに苦手意識を持ったんだと思う。

それに、学ぶ回数も少なかった。

「何度読んでもわからない情報」を読んだ回数は、  
片手で数えられる程度だった

それでは成長がなくて当然だ

では、なぜ今私は昔よりも成長できたのか？

それは、ネットビジネスで結果を出している  
起業家さんと出会えたからだ。

そこで完璧主義を辞めること、

くりかえし触れていくことの重要性を学んだ。

人間は付き合い相手によって人生が変わっていくと思う。

名古屋のニューハーフクラブで働いていた頃、  
先輩ニューハーフのようにキレイになりたくて私は努力をした。

自分はまだダメだ、もっと上を目指さないと！と思えたからだ。

同じように、ネットビジネスの世界に触れていると、  
自分のレベルの低さを思い知ってしまう。

今の収入じゃダメだ、自動化してるからって自惚れてちゃダメだ。  
そう思って行動することができる。

「お金は自分のビジネスを成長させるものに使うのが当然だ」

考え方も価値観もどんどん変わっていく。

もし、逆に稼げない価値観に染まっていたままだったら、  
私は今だに貧乏だ、給料が安いだと嘆いていたかもしれない

自分が知らない世界は怪しいと思ってしまう。

私も最初は詐欺だとか、犯罪だと思っていた。

だが、実際に足を突っ込んでみると、  
犯罪でも詐欺でもないれっきとしたビジネスであり

実際に多くの人に取り組んでいて  
多くの金額を稼いでいる人がいることを知った。

それはネットワークビジネスでも、ネットビジネスでも同じだ

**「努力は必ずしも報われない」…だからこそ。**

元AKB48のメンバーだった「高橋みなみ」さんが  
「努力は必ず報われる」と、よく言っていたそう。

とてもいい言葉だなあと思う

スピーチはネットで検索して読んだ

この発言をしている高橋みなみさん本人も  
「努力は必ずしも報われるとは限らない」  
そんなことは分かっている

とも発言しているように、世の中には報われる努力と、

報われない努力があるのは事実。

私が思うに「報われない努力」とは、  
努力の方向性が間違っている努力だと思う。

私は今、沖縄県に住んでいるので、沖縄の話为例にする。  
例えば私が東京に行くなら、飛行機か船でしか行くことができない。

ご存知の通り、沖縄は離島だからだ。

なのに私が「船や飛行機はキライだから歩いて行く！」  
など行ったら、どう頑張っても東京にはたどり着かない。

海の上を歩ける靴を開発してみたり、  
地下深くにトンネルを作って道を作ろうとするかもしれない。

その努力は素晴らしいけど、冷静に見ると  
私は東京に行こうとしてるだけであって、  
海の上を歩ける靴やトンネルの開発をしたいわけじゃない

つまり、非効率だし、目的が達成できるかも危ういわけだ。

東京に行きたいのなら、キライかもしれないけど  
飛行機やフェリーで行けばいい。ただそれだけのことだ。

苦手な船や飛行機に乗る努力は必要かもしれない。

この場合「報われる努力」とは、  
苦手な飛行機や船に乗ることだ

今の話は極端な例だけど、私は同じようなことをしてしまっていた

過去に、ブログの見栄えを良くしようと思って、  
よくわからないままブログのHTMLやCSSを修正していた事だ。

ブログのテンプレートを買ったほうが遥かに効率が良いし  
クオリティも高いのにお金を使いたくなかったがために  
ゼロからHTMLやCSSを勉強したことがある。

専門用語が多くて理解が難しかったので、  
早い段階で諦めたけど数日間ムダにってしまった。

数日間あればファストフードのバイトでも1万円ちょいは稼げる

ブログテンプレートもそんな高額なものではないから  
買ったほうが効率が悪かったのに買わなかった。

時間もお金もムダにしたのに、  
問題は解決しないという結果になった。

努力の方向が間違っていたと思う

いくら努力しても方向が間違っていると結果が出せない。

結果が出せないと評価はされないんだ。

AKBでいうと、努力しても結果が残せなければ選抜メンバーにもなれないのと同じだ。  
ビジネスの世界では、結果が出せなければ1円のお金にもならない

努力さえすればいい。

頑張っているから褒められるという価値観では  
ビジネスは上手く行かない。

だから、努力の方向性を間違わないように意識して、  
自分の努力は正しいのか？

と、  
自分でも定期的に確認したほうがいい

そうすることで、挫折を回避することができるし、  
結果を出せる人間になっていく。

ちょっと厳しいことを言ってしまったが、  
それはビジネスの現実だからだ。

でも、考え方を変わるとむしろすごく未来のある話に見える。

結果が出る努力をすれば、ちゃんと努力は報われる。

従業員で生きて来た時よりも多くのお金が結果として手に入る。

また、効率よく結果を出すことができれば  
大した手間や時間をかけなくても結果が出るようになる  
一般の人から見れば「楽しんで稼いでいる」ように見えるかも  
しれないが、それは効率よく結果が出る行為をしているだけだ

効率よく稼げるようになれば、仕事づめの生活からも解放される。

アレしなきゃ、コレしなきゃ  
仕事があるから〇〇ができない…

という考えから解放される。

精神的な余裕も生まれるし、  
経済的な余裕も生まれるし  
時間的な余裕も生まれる。

ストレスが劇的に減るので笑顔も増えるし、  
笑顔が増えたことで、周囲の反応も良くなっていく。

収入が増えれば自分の人間力を上げることに  
お金を使えるようになるから、人間的な魅力も増していく。



時間に余裕も生まれるので、やりたかったことがやれるようになる  
お金も気にしないようになる。

そうなる则ち毎日がどんどん楽しくなっていく。

仕事がダルいとか、働きたくないと言っていた過去の自分とは  
別人のようになる。

ビジネスも楽しいし、どんどんアイデアも湧いてくる。

日々成長を意識しているので頭も良くなるし、  
できることもどんどん増えていく。

できることが増えるから、人生の選択肢もどんどん広がる。

人材としての価値も上がっていく。

「〇〇を教えてください」

「コンサルティングしてください」

という依頼も来るようになる

収入を会社に依存しないので、自分を押し殺して  
会社や上司に合わせて自分を捻じ曲げる必要がなくなる。

MTFだったら、堂々と女で生きられる。

という意味だ

以外に思われるかもしれないが。  
お金について学ぶことで、  
お金以外の価値も手に入れられるようになる。

私はネットビジネスを知ったことで、  
自分の人生がより楽しくなった  
収入がゼロになっても自分で生きていける  
という自信が身についた。

仕事やお金を失う恐怖も減った

自分に自信が持てるようになって、  
今までビビっていた世界にチャレンジできるようになった。

趣味も増えたとし、友達も増えた。

住む所にもとらわれないからフットワークも軽くなった。

旅行も気軽に行けるようになり、  
その影響で行動力もどんどん増している。

世の中はお金じゃない。

だが、お金について学ぶことで  
「お金だけじゃない世界」を知ることができる。

お金に困っている人も、世の中は金じゃないと思っている人もほんとうの意味で「お金よりも大切なモノ」を手に入れるためにビジネスにチャレンジしてみしてほしいと思う。

私という人間を語る上で、身体の変化のこと、女体化のことや、お金、ビジネスの話はどうしても伝えたかった

そのため、お金のことも身体のこと、過去のダメだった時期や、腐りかけた時期のことも隠さず赤裸々に書いた

読み返してみると、これが自分以外の人に見られるのはかなり恥ずかしいのだが、恥ずかしい部分も伝えることで、わたしとあなたはより心の距離が近づけたと思う。

このレポートは、性同一性障害で苦しんでいる人と、お金がなくて困っている人に向けて書いた。

理由は、私のようなMTFは心の問題でも病んでしまうのだが、心の問題が解決したと思ったら、次はお金の問題で病んでしまうからだ。

普通の人よりも二重に苦しんでしまう

実際、苦しみの余りうつ病などの精神疾患になる人は本当に多い。

自分に価値を感じられなくて、否定ばかりして生きている人も多い。

それがひどくなると自殺してしまう人もいる。

本当は自殺する必要なんて全くないし、  
価値がない人間なんていない。

ただ自分の価値に気づいていないだけだ。  
このレポートを通して自分の価値に気づいてほしいと思っただし  
更に自分の魅力を高めたり、目標に向かって行動してくれたら  
本当に嬉しいことだと思う。

私のもとには「自信がなくて行動できない」  
という相談が山のようにとどく。

相談してくる人達に実際に会うこともあるのだが、  
本人が言うほど魅力がないなんて私は全く思わない。

むしろ、堂々としてほしいと思う。

今自分に自信がなくてもいい。

価値を感じられなくても、  
自己肯定感が低くて、死にたいと思ってしまうほど  
病んでいてもいい。

今から少しずつでもいいから  
自分ができることを見つけてチャレンジしてみてほしいと思う。

ハードルは上げなくていいし、  
完璧にやる必要はまったくない。

失敗したってぜんぜんいい。

むしろ、失敗ってのは、成功しないデータが取れただけであって  
テスト結果みたいなものだ

失敗の回数が多い人ほどよい結果を残すくらいだ

一番の失敗は「行動しないこと」だ。

あなたが「失敗」だと思っていることは、  
スタートラインに立って動いた人しか手に入れることができない

本当の失敗は、スタートラインに立とうとさえしないことだ

むしろ失敗するまで行動しつづけた自分を褒めてほしいと思う。

慣れないことや、経験がないものは  
普通さいしょ失敗するものだ。

自転車の運転だって、最初はみんな転んだと思う。

私も転びまくった。  
膝をすりむいて血が出たこともある。

それでも失敗なんて気にしなかったから  
自転車に乗れるようになった。

あなたも自分が始めて自転車に乗った時のことを思い出してほしい。

失敗しまくっていたはずだ。

日本人が失敗をここまで怖がるのは社会の洗脳が原因だ。

完璧主義を求められ、失敗を笑われて、人の上げ足を取ったり誰かの悪い部分を見つけては指摘するような社会。

そんな社会で生きてしまうと、失敗が怖くなるのは当然だ。

小学生の頃は失敗なんて怖くなかったのに、大人になった今では失敗が怖くてたまらないものになる

それは日本社会の洗脳が強烈だからだ。

その証拠として日本は自殺率が世界でもかなり高い。

「世界で一番人を殺している道具」といわれている自動車事故で死ぬ人よりも自殺で死ぬ人の方が多いくらいだ

それくらい日本社会の洗脳は強烈だ

話をもどそう。

だから、完璧にやる必要はない。

何かの実験をやっているような気持ちで、  
失敗例も記録するくらいの気持ちで取り組めばいいと思う。

そうやって自分の人間力を上げていき、  
豊かな人生を手に入れてほしい

私もまだまだ全然自分の収入には満足していないので、  
もっと上を目指して日々行動している。

自分の実力がそのまま収入に繋がるので、  
自分を成長させるのはとても楽しくて有意義だ。

人生とは、苦しみに耐えるものでも  
我慢しつつけるものでもない。

楽しむものだ。

苦しんでばかりだった私も今人生を楽しむことができている  
これを読んだあなたも、もっと人生を楽しんでくれる  
キッカケになればうれしいと思う。

レポートは以上です。

かなり長くなったけど、  
ここまで読んでいただきありがとうございました。

感想はいつでもお待ちしております。

メルマガもやっています。

男→女になる情報を発信してるメルマガはこちら

お金を稼いで豊かな人生を手に入れるメルマガはこちら